

四日市大学社会連携報告書

平成 23 年度版

目次

はじめに

1. 公開授業

- 1-1 経済学特殊講義（経済学部）
- 1-2 経営学特殊講義（経済学部）
- 1-3 環境情報学特殊講義（環境情報学部）
- 1-4 まちづくり研究（総合政策学部／総合政策特殊研究 a）
- 1-5 地方議会論（総合政策学部／政治・行政論 c）
- 1-6 鉄道とまちづくり（総合政策学部／組織経営論 b）
- 1-7 祭りとまちづくり（総合政策学部／比較文化論 c）
- 1-8 食とまちづくり（総合政策学部／総合政策特殊研究 b）

2. 高大連携授業

- 2-1 経済学部の高大連携授業
- 2-2 環境情報学部の高大連携授業
- 2-3 北星高校との連携～総合政策学部 1 年生ゼミへの参加
- 2-4 3 学部共同の高大連携授業
- 2-5 東日本大震災救援活動と学校間連携

3. 社会づくり・地域活性化活動

- 3-1 多文化共生社会の実現
- 3-2 伊勢竹鶏物語
- 3-3 高校野球部メンタルサポート活動
- 3-4 四日市とんてき協会
- 3-5 エフエムよっかいち（株）との関わり
- 3-6 四日市東日本大震災支援の会
- 3-7 NPO法人市民社会研究所
- 3-8 四日市大学美術クラブ研究会

4. 学生による地域活動

- 4-1 Aプロ（北勢線あるけオロジー）
- 4-2 MovieZoo
- 4-3 ETV よっかだい
- 4-4 よっかだいエコ活動
- 4-5 学生の自発的な地域連携活動を促進するプロジェクト
- 4-6 四日市大学学生ボランティア部

- 4-7 地パト（四日市大学地域パトロール）
- 4-8 四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」
- 4-9 高齢者との交流グループ「おもてなしなんでもやります隊」

5. 生涯学習・公開講座

- 5-1 四日市大学コミュニティカレッジ
- 5-2 みえアカデミックセミナー
- 5-3 四日市大学公開講座「東日本大震災から日本人が学んだこと」
- 5-4 四日市市民大学

6. 調査研究

- 6-1 四日市大学研究機構 関数学研究所
- 6-2 四日市大学研究機構 公共政策研究所
- 6-3 3学部共同研究
- 6-4 四日市学研究会
- 6-5 大矢知・平津廃棄物不法投棄環境保全活動
- 6-6 十四川環境保全活動
- 6-7 鈴鹿山脈ブナ林調査（四日市大学研究機構・サステイナビリティ研究所）
- 6-8 四日市辺二酸化窒素一斉調査

7. 今後への展望

- 7-1 教員の地域連携ポテンシャルの活用方策
- 7-2 四日市大学地域貢献センター（仮称）への期待

おわりに 社会連携の理想像とは

資料編 学外委員会での活動（委員会名・役職名のリスト）

付録 平成24年度後半の四日市大学地域連携行事予定

はじめに

昨年度に引き続き、四日市大学の社会連携活動を取りまとめる冊子を作成致しました。大学等の高等教育機関に籍を置く研究者が、学問追求だけでなく地域社会に積極的に飛び出し、市民と交流しながら地域問題の解決支援にあたるのが社会的に求められるようになり、この流れは年々強まっています。四日市大学は北勢地域のシンクタンクとして設立されましたが、このような流れの中で社会連携活動を通じてその役割を果たすことが大きな仕事となってきました。

昨年度も書きましたが、高大連携教育などを含む、地域の初等中等教育機関との連携教育活動が増え、そして根付きました。平成 23 年度の連携授業実施校は 3 学部で 10 校に達します。地域の高校生の大学への進学率向上や、理数科目離れ防止などの面で、本学は一定の役割を果たしていると考えられます。

また、地域の幅広い年齢層の方々に生涯学習の場を提供しています。学費減免などの優遇措置を整備した社会人学生入学制度と、どなたでも受講できるコミュニティカレッジがその代表例です。社会人学生の方々は授業への参加に加えて、大学教員との関係の中で社会との新たな係りを見つけ、生き生きと活動しておられます。コミュニティカレッジは大学教育の敷居を下げて、さらに多くの方々に楽しく学ぶ場を提供するものですが、開設 11 周年を迎え、今では本学の社会連携活動の柱となりました。

留学生教育は社会連携という視点から見るのが重要です。日本の人口構造の変化で外国人在留者が増加し、社会を下支えしています。本学も少子化の流れの中で多数の留学生を入学させるようになりましたが、彼らに日本社会や文化を理解してもらい、地域社会で役割を果たせるように教育を行い、地域への橋渡しをすることが本学の新たな仕事となっています。

平成 21 年度に設置された四日市大学研究機構は 3 研究所を抱え、基礎研究のみならず学際的な活動を積極的に行い、本学教員の研究と地域を繋げる活動を展開して本学の社会連携活動の拠点となりつつあります。競争的外部資金を主な活動資金源としているため、今後はその調達がポイントになります。

本学の学生団体による地域活動も、教員の支援を受けながら着実に発展してきました。学生ならではの発想と行動力が魅力で、地域や行政の方々から期待され、協力要請も増えてきています。社会連携活動は学生が社会に触れ合う機会であり、視野を広げるチャンスでもあります。より多くの学生が地域活動に参加できるように大学として支援することが望まれます。

四日市大学の教職員は社会連携活動をさらに拡大・深化させてゆくポテンシャルを持っています。今後、一層多くの教職員が社会連携活動に参加することで、大学と地域とのつながりが深まってゆくと思います。四日市大学として、多くの皆様からご意見・ご指導をいただきながら、地域に役立つ活動を展開して参りたいと考えております。どうぞ、宜しく願い申し上げます。

地域連携担当・環境情報学部教授 千葉 賢

1. 公開授業

1-1 経済学特殊講義（経済学部）

活動の目的と経緯

経済学特殊講義は経営学殊講義と1年交替で開講される講義で、平成7年度に開講して以来、平成23年度で第9回目を迎えました。この講義では、その時々話題となっている問題について、その分野の専門家や第一線で活動している方々をお招きし、通常の事業では学ぶことができない「経済の今」を体感する講義をしていただきます。正課の講義科目ですが、広く地域の方々に開放しています。

活動内容と実績

平成23年度のテーマは、「地域と世界のつながり」です。グローバル化は日常生活の一部となり、国境を超えた経済、社会、文化の誕生は、それまで国家を挟んで間接的につながっていた「地域」と「世界」を直接結びつけました。このような「グローカル」な社会で、私たちは世界から何を受け取り、世界に何を発信していけばよいのかを考える講義としました。内容は次の通りです。

		日程	テーマ	講師
経済学特殊講義A (前期)	第1回	4/27	金融危機と地域経済	先浦宏紀氏（三重銀総研・調査部副部長兼主任研究員）
	第2回	5/11	輸入食品と食の安全	伊藤真由美氏（マックスバリュ・CS推進部長）
	第3回	5/25	石油とコンビナート	富樫幸一氏（岐阜大学教授）
	第4回	6/8	麻薬問題	二村久則氏（名古屋大学大学院教授）
	第5回	6/22	戦争と平和	デイヴィッド・ポッター氏（南山大学教授）
	第6回	7/6	外国人労働者	草加道常氏（RINK：すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク事務局）
	第7回	7/13	人身売買	吉田容子氏（立命館大学法科大学院教授（弁護士））
経済学特殊講義B (後期)	第1回	9/28	グローバル人材1	樗木辰夫氏（(株)タツノ・海外事業部営業課課長）
	第2回	10/12	グローバル人材2	張敬清氏（(株)Keisei・留学生キャリアサポーター）
	第3回	10/26	熊野古道	小倉肇氏（みえ熊野学研究会・運営委員長）
	第4回	11/9	外国人観光誘致	野木森和男氏（近畿日本ツーリスト・中部営業本部国際旅行課）
	第5回	11/16	多文化共生・NPOの取り組み	坂本久海子氏（NPO 愛伝舎・理事長）
	第6回	11/30	フェアトレード	児玉克哉氏（三重大大学教授）
	第7回	12/7	「グローカルアイ」パネ ル・ディスカッション	早川敦子氏（CTY グローカルアイ・キャスター）、経済 学科教員

今後の計画

2013年度も、その時々話題となっていたテーマを取り上げ経済学部特殊講義を開講いたします。

担当部門 : 四日市大学経済学部

連絡先 : 四日市大学教学課 電話 059-365-6716 メール : kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

1-2 経営学特殊講義（経済学部）

活動の目的と経緯

経営学特殊講義は経済学特殊講義と1年交替で開講される講義で、平成8年度に開講されて以来、平成24年度で9回目を迎えます。

この講義の目的は生きた経営を学ぶことです。学外から実際に会社経営に携わっている経営者や会社経営の実務面に詳しい知見を持っている専門家の方を講師としてお招きし、より実践的な側面の講義をしていただきます。それによって普段はなかなかふれることのできない貴重な体験談や実務的な知恵に接することができます。

直接は本学の学生向けの講義ですが、学生だけではなく広く一般の方の来聴も歓迎しています。実際に今会社を経営しておられる方や、退職した方で今までの自分の会社員としての人生について振り返って考えるための糸口を得たいといった方など、毎回多くの来聴者があり、熱心に講義を聴いておられます。学外の方はすべての講義を聴いていただく必要はなく、希望する講師の回の講義を選んで聴いていただけます。資料をお渡しする場合があります、その準備の都合上事前の申し込みが必要です。

活動内容と実績

平成24年度予定の日程と講師は下表の通りです。

前期	第1回	4月25日	宝印刷株式会社顧問 谷合孝昭氏
	第2回	5月9日	錦見鑄造株式会社代表取締役社長 錦見泰郎氏
	第3回	5月23日	森欽窯業株式会社代表取締役会長 森純孝氏
	第4回	6月6日	元J:COM湘南社長 桜井隆氏
	第5回	6月13日	株式会社佐野鉄工代表取締役 佐野明郎氏
	第6回	6月27日	株式会社ハツメック代表取締役 服部一彌氏
	第7回	7月11日	ジェイシーアイエス代表取締役 福西裕氏
後期	第1回	9月26日	日本総合研究所調査部主席研究員 藻谷浩介氏
	第2回	10月10日	株式会社くじラボ代表取締役 市川さつき氏
	第3回	10月24日	平松産業株式会社代表取締役 平松俊範氏
	第4回	11月7日	ローム顧問（元村田製作所広報部長） 大島幸男氏
	第5回	11月14日	株式会社小林機械製作所代表取締役社長 森十九男氏
	第6回	11月28日	株式会社東海テクノ代表取締役社長 市田淳一氏
	第7回	12月12日	IMSアセットマネジメント代表取締役 清水秀和氏

今後の計画

2013年度から本学経済学部は、従来の経済学科と経営学科の2学科体制から新たに経済経営学科の1学科体制に変更されます。しかし、経営学特殊講義は2014年度にも開講する予定です。それ以降は、新しい学科の講義として経済経営特殊講義がスタートする予定です。

担当部門 : 四日市大学経済学部

連絡先 : 四日市大学教学課 電話 059-365-6716 メール : kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

1-3 環境情報学特殊講義（環境情報学部）

活動の目的と経緯

環境情報学部では、2007 年度のカリキュラム改訂にともない、従来の「環境情報学特殊講義」をリニューアルし、既存の学問体系にとらわれず幅広い視野で環境問題を考え、また現場で活躍している方々の実践などを学ぶ内容にいたしました。当初は学内の学生を対象としたものでありましたが、2010 年以降学外者にも幅広く聞いていただくように、授業を開放する公開講座としています。

2011 年度は、「公害と環境問題」をテーマとして開講いたしました。四日市では、1950 年代後半に石油化学コンビナートが建設され、それにもなつて 60 年代以降大気汚染や海洋汚染などが激しくなり、四日市公害とよばれる大きな環境問題が起こりました。そこで、かつて四日市公害問題に携わってきた地元の方々を招き、当時の状況などを話していただき、四日市公害について歴史的な教訓を学びました。また現在も起こっている環境破壊や環境問題にも目をむけ、その解決のために様々な分野で活躍している人々の話を聞き、こういったことがどうして発生し、それに対してどう対処すべきかを探ることを狙いとして講義を行ないました。

活動内容と実績

「環境特殊講義」は毎週火曜日 3 限目（13:00～14:30）に実施し、15 回の講義をもちました。60 数名の受講生があり、そのうち毎時 10 数名の学外者の方の参加を得ました。講義の内容は以下の通りです。

4/12	オリエンテーション	6/7	遺伝子組み換え汚染—四日市港からの菜種汚染を中心に—
4/19	四日市公害のあらまし	6/14	世界の環境と我々の生活
4/26	四日市公害訴訟の今日的意義	6/21	上水道処理技術と環境活動
5/10	公害患者に学ぶ	6/28	大気汚染路オゾン層の破壊
5/17	四日市公害を記録してきて	7/5	廃棄物リサイクルの現状
5/24	廃棄物問題の現状—東海地区を中心に—	7/12	環境ビジネスと企業経営
5/31	大矢知・平津地区産業廃棄物不法投棄問題	7/19	産業廃棄物処理の現状と課題

今後の計画

次年度以降も同講義を継続し、学内者はもとより学外者に対しても環境問題を実感できる内容の濃い講義を計画していきたいと考えています。

担当部門 : 四日市大学環境情報学部

連絡先 : 四日市大学教学課 電話 059-365-6716 メール : kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

1-4 まちづくり研究（総合政策学部／総合政策特殊研究 a）

活動の目的と経緯

2001年の発足以来、総合政策学部は「まちづくり」を学部の中心テーマに掲げてきました。これを象徴するように、「まちづくり研究」は地域と連携した授業として、学部発足時から一貫して地域の方々にも開放して開講してきています。この授業は、四日市市の行政各部署の職員の方々を講師に、四日市市の総合計画、財政、福祉、環境などの諸分野を通常の授業として15回にわたって学ぶものです。四日市大学は「公私協力型大学」として、設立当初から四日市市と強い協力関係をもっていますが、この授業もその一つの表れということができます。

活動内容と実績

この授業は、毎年大学側で講義計画を作成し、それに基づいて四日市市の企画担当部署を窓口、庁内各課に呼びかけて講師を決定します。各講師は忙しい仕事の合間をぬっての講義となりますが、学生に向けてわかりやすい講義をしていただいています。

平成21年度からは、3期にわたって市長を務められた井上哲夫氏に、「まちづくりと市長の役割」と題する講義をご担当いただいています。「まちづくり研究」には毎年一般の市民の方が受講されていますが、井上氏の講義の回は、教室がいっぱいになるほどの多くの市民の参加があります。

今後の計画

平成23年度の授業内容は下記の通りですが、今後はさらに四日市市の姿が浮き彫りになるよう、内容構成を変化させていきたいと考えています。

	日 時	内 容	担当者（所属・役職・名前）
1	9/13（火）	まちづくり研究の概要説明	四日市大学総合政策学部 教授 松井真理子
2	9/20（火）	四日市市新総合計画	政策推進部政策推進課 主幹 田中 啓晶
3	9/27（火）	四日市市の財政	財政経営部財政経営課 主幹 大原 喜美
4	10/4（火）	四日市市の観光	商工農水部商業勤労課観光推進室 室付主幹 岡田良浩
5	10/11（火）	多文化共生	市民文化部文化国際課多文化共生推進室 主幹 浅野幹夫
6	10/18（火）	環境	環境部生活環境課リサイクル係 主幹 前川 篤
7	10/25（火）	安全・安心・災害に強いまちづくり	危機管理監危機管理室 室付主幹 山本雅己
8	11/1（火）	福祉	福祉部児童福祉課家庭児童相談室 主幹 石川美千代
9	11/8（火）	健康・医療	健康部健康づくり課 母子保健係長 市川理恵子
10	11/15（火）	教育・スポーツ	教育委員会スポーツ課課付主幹兼振興係長 大本泰弘
11	11/22（火）	人権	総務部 人権センター 副参事 市川清博
12	11/29（火）	まちづくりと市長の役割	元四日市市長 井上哲夫
13	12/6（火）	四日市市の都市計画	都市整備部都市計画課 政策グループリーダー 川尻裕司
14	12/13（火）	市民協働	市民文化部市民生活課市民活動安全係 主幹 岡本光晃
15	1/17（火）	まとめ	四日市大学総合政策学部 教授 松井真理子

担当部門：四日市大学総合政策学部

連絡先：総合政策学部教授 松井真理子 電話：090-6411-0046 メール：mariko@yokkaichi-u.ac.jp

1-5 地方議会論（総合政策学部／政治・行政論 c）

活動の目的と経緯

四日市大学総合政策学部では、夏季の3日間の集中講義として、議員や議会に関係の深い皆さんを講師に招き、現場の最前線のお話を伺うことを通じて、議会や議員についての基礎的な知識を身につけると共に、今日における地方議会の意義を理解する公開授業を行っています。

三重県議会は、議会改革では日本のトップランナーであり、地元四日市市議会も積極的な議会改革に取り組んでいます。このような動きを、議員や関係者から直接学ぶ機会はきわめて貴重なものであり、内容の濃さとともに受講者から好評を博しています。

活動内容と実績

平成23年度は、7月23日（土）～25日（月）に開催しました。1日目は「地方議会のしくみ」をテーマに、「議会の仕事」について、三重県議会の森野真治議員、永田正巳議員、四日市市議会の豊田政典議員、中森慎二議員に、具体的な取り組みについて講義をしていただきました。2日目は「議会改革」をテーマに、三重県議会の中森博文議員、伊賀市議会の安本美栄子議長、四日市市議会の毛利彰男議長に基調報告をしていただいた後、三重県議会の三谷哲央元議長に加わっていただき、パネルディスカッション的な議論を行いました。全国的にもトップクラスの議会改革の取り組みをしている議会の議長、元議長が揃う豪華な顔触れで、それぞれの議会の取り組みを熱く語っていただきました。3日目は「住民と議会」をテーマに、「議員を志すこと」について、三重県議会の小島智子議員と四日市市議会の荒木美幸議員に、「住民と議会をどうつなぐか」について、三重県議会の石田成生議員と四日市議会の石川勝彦議員に講義をいただきました。

今後の計画

これまで議員を中心に構成してきましたが、負担がかなり多くなることもあり、住民の立場から議会に積極的に関わっている人々にも参加していただく授業にしていきたいと考えています。



市民の受講生も多い「地方議会論」の公開授業

担当部門：四日市大学総合政策学部

連絡先：総合政策学部教授 松井真理子 電話：090-6411-0046 メール：mariko@yokkaichi-u.ac.jp

1-6 鉄道とまちづくり（総合政策学部／組織経営論 b）

活動の目的と経緯

我が国のなかでも、特に、本学の位置する三重県北勢地域は、国土軸が通過していることもあって、道路網が比較的整備されており、自家用自動車の利便性は圧倒的に高い地域として知られています。

しかし、今後の超高齢社会と大量に生じるであろう移動困難者を見据えた時、公共交通を、自家用自動車に全て代替するわけにはいきません。既に、地方鉄道も、補助金によって、なんとか存続しているのが実情ですが、特に、鉄道は、今、廃止してしまうと、その莫大な設備投資のために、復活はほぼ絶望的といってもいいでしょう。では、鉄道会社と私たちは何ができるのでしょうか。

本講座は、2008年、(株)三岐鉄道が、(財)日本民営鉄道協会の補助を得て、本学・総合政策学部「寄付講座」に近い形で開設されたことを契機とします。

まず、教科書となる『地域活性化に地方鉄道が果たす役割—三岐鉄道の場合』（交通新聞社、2008年9月刊）を取りまとめ、この本を教科書として、2008年後学期には、鉄道研究者や交通の専門家、地方鉄道経営者を招いての連続講座を、開放講座として、実施しました。学生が、社会人の皆さんと交流しながら、地方鉄道を存続させる意義について考え、具体的に地方鉄道の活用方策を実践していくことが、本講座の目的です。

活動内容と実績

翌2009年度後学期は、教科書を基に、学生と社会人、そして、(株)三岐鉄道の社員の方にコーディネーターをお願いして、具体的な利用向上策を検討しました。イベント電車、沿線の自然・歴史資源の発掘による観光利用、バスとの連携方策、さらには、駅舎への整形外科医院の誘致など、様々なアイデアが生まれました。

2010年後学期からは、学生だけで、皆さんから出していただいたアイデアの実践に移りました。検討を進めるなかで、将来、乗客となってもらえる子どもをターゲットとしたイベント電車が有効なのではないかとの結論を得て、2010年12月、三岐鉄道北勢線で、「サンタ電車」を走らせることができました。当日は、一編成2両分でしたが、大賑わいで、およそ、2,000人の集客がありました。

2011年後学期は、「サンタ電車」のバージョンアップを目指し、沿線自治体の「ゆるキャラ」が西桑名駅に集結しました。一編成4両、全てがクリスマスデコレーションされ、他の時期の各種イベント電車の先駆けとなって、冬の三岐鉄道北勢線の名物となりつつあります。

今後の計画

これからも、「サンタ電車」は、学生に受け継がれて走り続けます。同時に、私たちも、将来のために、今、鉄道を利用することが求められているのです。



担当部門：四日市大学総合政策学部

連絡先：総合政策学部教授 岩崎恭典 電話：059-340-1903 メール：yasunori@yokkaichi-u.ac.jp

1-7 祭りとまちづくり（総合政策学部／比較文化論 c）

活動の目的と経緯

都市では、郊外へのスプロール化に伴って、中心市街地の空洞化や高齢化が甚だしくなっています。

四日市市もその例外ではなく、特に、臨海コンビナートへの工業集積の際の道路整備によって、旧市街地での過疎化は、大きな問題となっています。この問題は、しばしば、商店街におけるシャッター通り問題として取り上げられ、また、都心居住によるコンパクトシティー化が、解決手法として提示されますが、忘れられがちなのは、伝統的な祭礼が、居住者の減少により、存亡の危機に立っているということです。

本講座は、2008年、四日市市商工観光課の仲介により、大学としての支援を求められたことにより開始されました。

四日市市のシンボルとなっている日本一の高さを持つからくり「大入道山車」は、西納屋町町会の努力により、維持されています。しかし、同町会内に、小学生は2人しかおらず(2012年現在)、曳き手不足に悩まされています。

そこで、夏の大四日市祭の際に、学生は引き手として、地元の皆さんは人形師として、それぞれが役割分担しながら、存続が図れないだろうかという意図から始まったのが、この講座です。

活動内容と実績

2012年前学期は履修学生約30名と例外的に多数ですが、例年5～10名履修する学生諸君は、まず、四日市祭を研究している専門家から5回にわたって、歴史や課題を学び、「大入道山車」、「岩戸山」のそれぞれの保存会の方から各1回、お話しをお伺いします。そして、「大入道山車」の組み立てを見学し、夏の大四日市祭に際しては、終日、山車の曳き手として、祭の手伝いをします。この間、数日におわたって、地域の人々と触れ合い、お祭の維持に懸命な地元の人々の姿を知ることによって、お祭の意義を知り、学生諸君が就職後どこへ移ろうとも、地域と様々な形で関わってもらうことを期待しています。

今後の計画

今年の大四日市祭には、昨年度の履修学生もボランティアで参加してくれるようで、大変嬉しく思っています。また、他の山車の手伝いも求められており、活動の場は広がるものと考えられます。



担当部門 : 四日市大学総合政策学部

連絡先 : 総合政策学部教授 岩崎恭典 電話 : 059-340-1903 メール : yasunori@yokkaichi-u.ac.jp

1-8 食とまちづくり（総合政策学部／総合政策特殊研究b）

活動の目的と経緯

近年、いわゆるB級グルメのブームなどにより、食文化が、まちづくりとの関係から注目されるようになってきています。餃子で有名になった宇都宮市や、いわゆる「名古屋めし」で観光客を呼べるようになった名古屋市、フードバレー構想を掲げてまちづくりを推進している富士宮市など、多くのまちで、食文化がまちづくりに一役買うようになってきています。

本学の関係でも、2008年に設立された四日市とんてき協会の代表は総合政策学部の小林准教授が務めていますし、学生たちの中にも、食によるまちおこしなどの活動に参加する者も出てきました。

そこで総合政策学部では、食文化を通じてのまちづくりの可能性について学ぶ科目を、2011年度、開設しました。この科目では、四日市とんてきなどの食を通じて実際にまちづくり活動に取り組んでいる地域の方々を講師にお迎えして、取り組みについてお話を伺うとともに、B-1グランプリなどの食によるまちおこし活動の現場に学生がスタッフとして参加する実習も行っています。

学生たちが、まちづくりの現場を経験することを経て、まちづくりについて自分なりの考え方を身につけるとともに、将来、まちづくりの担い手として地域に貢献できるように育っていくことを目的としています。

活動内容と実績

2011年度は、四日市で食を通じたまちおこし活動に取り組んでいる四日市とんてき協会の理事の方々3名に、講師として登壇いただきました。また、兵庫県姫路市で行われたB-1グランプリには、10名以上の学生がスタッフとして参加し、地域の方々とともに、四日市というまちの売り込みに汗を流しました。こうした経験を経てきた学生が高く評価されたためか、参加した学生のうち2013年春卒業予定の学生の多くが、厳しい就職戦線の中でも早々と内定を獲得してきており、地域社会に高い評価をいただける学生の育成という効果も挙がっていると考えています。

今後の計画

2012年度は、四日市以外の団体からも講師を招き、より幅広い観点から、食とまちづくりについての学生たちの理解と経験を深められるようにしていく予定です。



四日市とんてき協会 西村副代表の講義 学生たちもスタッフとして参加した第6回B-1グランプリ

担当部門 : 四日市大学総合政策学部

連絡先 : 総合政策学部准教授 小林慶太郎 電話 : 059-340-1923 メール : keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

2. 高大連携授業

2-1 経済学部の高大連携授業

活動の目的と経緯

経済学部では地元の高校生に大学の講義を体験してもらい、自身の進路選択を考える機会を与えることや世の中の動きに興味を持ってもらうことを目的として高大連携授業を行っています。平成 23 年度は四日市商業高等学校において授業を行いました。

活動内容と実績

第1回 4月27日(水) 13:30~14:20

- I. 岩崎祐子 『ビッグマックからみる世界』
受講生徒 2年E組 (39人)
- II. 鶴田利恵 『国際経済における日本の役割』
受講生徒 2年A組、B組 (80人)
- III. 片山清和 『コンピュータの高性能化と低消費電力化』
受講生徒 2年C、D、F、G組 (160人)

第2回 5月11日(水) 13:30~14:20

- I. 岡良浩 『ソーシャル化するビジネス』
受講生徒 2年C、D、F、G組 (160人)
- II. 杉谷克芳 『大店法の規制緩和と商店街の衰退』
受講生徒 2年A組、B組 (80人)
- III. 李修二 『人間の経済』
受講生徒 2年E組 (39人)

第3回 5月25日(水) 13:30~14:20

- I. D. ダイクス 『英国の国営医療のホームページは、驚きの情報開示量!』
受講生徒 2年C、D組 (80人)
- II. 池田幹男 『マルチメディアコンテンツ配信ビジネス』
受講生徒 2年F、G組 (80人)
- III. 岡良浩 『ソーシャル化するビジネス』
受講生徒 2年A、B、E組 (119人)

今後の計画

今後も積極的に高大連携授業を実施します。

担当部門 : 四日市大学経済学部

連絡先 : 経済学部教授 富田与 電話 : 059-340-1427 メール : tomita@yokkaichi-u.ac.jp

2-2 環境情報学部の高大連携授業

活動の目的と経緯

高大連携授業は、高校では学べない大学教員の専門分野の話を通じて、高校生への社会への関心を高めたり、大学への興味を促したりすることを目的としています。環境情報学部は非常に早くから高大連携授業を手掛け、多くの高校と協定等を締結して活動を進めてきました。社会連携が本来の目的ですが、授業を通じて本学を知り、進学してくる高校生もいます。学生確保という面でも大切な活動です。

活動内容と実績

◇三重県立いなべ総合学園高等学校

- ・11月4日(金) 13:00~14:00 コンピュータ科学 千葉賢

◇三重県立四日市商業高等学校

- ・1年生のクラスでNO2測定フィールド学習(粟屋、千葉、武本)
11月30日, 12月1日の24時間測定の実施

◇四日市海星高等学校

- ・粟屋教授知人の先生のクラスでNO2測定フィールド学習(粟屋、千葉、武本)
11月30日, 12月1日の24時間測定の実施

◇暁高等学校 - 四日市大学環境情報学部

講義対象 暁高等学校1年 2011年

- 1組 10月20日(木) 午後50分: 城之内(コンピュータ)
- 2組 11月1日(火) 午前50分: 千葉(デジタルとアナログ)
- 3組 10月31日(月) 午後50分: 粟屋(四日市公害)

講義対象 暁高等学校2年 2012年 2月7, 14, 21日(火曜) 連続: 午後60分

Aクラス 田中(伊知郎) (ニホンザルと人類の違い)

Dクラス 粟屋 (原子力発電をどう考える?)

◇暁中学高等学校

- ・11月28日(月) 3時20分~4時20分: 高校2年生全員
環境を学べる大学の学部について: 武本
- ・2月20日(月) 午後: 高校1年生
世界のCMで見る「伝わる/伝えたいコミュニケーション」: 山本

◇三重県立四日市農芸高等学校

- 1) 7月31日、8月7・8日: 2年生1名参加 {朝明川流域環境調査} (高校側: 新美先生)
 - ・衛星画像とGISによる朝明川および高松干潟の環境情報 (井岡幹博)
 - ・高松干潟にてフィールド学習, 河川水と海水の化学分析 (高橋正昭)
 - ・朝明川中流域と源流部の調査ほか
- 2) 近藤・新実先生のクラスでNO2測定フィールド学習(粟屋、千葉、武本)
11月30, 12月1日の24時間測定の実施
- 3) 2012年2月21日(火) 午後 環境の歴史 播磨 基礎分野1年生80名

◇三重県立久居農林高等学校

- 1) 7月31日、8月7・8日：2年生3名参加 {朝明川流域環境調査} (高校側：生川先生)
 - ・衛星画像とGISによる朝明川および高松干潟の環境情報 (井岡幹博)
 - ・高松干潟にてフィールド学習, 河川水と海水の化学分析 (高橋正昭)
 - ・朝明川中流域と源流部の調査ほか
- 2) 10月25日 (火) 武本行正 大気環境 環境保全コース2年生29人程度
- 3) 11月29日 (火) 千葉 賢 海の環境 環境保全コース2年生29人程度

◇三重県立飯南高等学校 午前10時30分～12時20分、

- 1) 6月16日 (木) 現代の環境問題 橋爪清 郷土・環境系列3年生22名程度
- 2) 7月7日 (木) 環境の現状と課題 高橋正昭 郷土・環境系列3年生22名程度
- 3) (入試広報室所掌) 6月15日 (水) 環境情報学とは 千葉賢

◇愛知県立海翔高等学校

- 1) 2011年は事前学習および6月と11月15日 (火) の2回、合同による現地調査
三又池の現地調査の概要 (高橋+ゼミ生と千葉の担当)
水質調査： 地点14カ所：岸からの採水9地点と船による採水5地点
生物採取： 投網および採取網 (モンドリ) による魚類等の採取確認
3回目は2012年3月7日 (水) 9:30～12:00 「平成23年度の調査結果のまとめ」
- 2) 7月31日、8月7・8日：2年生10名参加 (朝明川流域環境調査)
 - ・衛星画像とGISによる朝明川および高松干潟の環境情報 (井岡幹博)
 - ・高松干潟にてフィールド学習, 河川水と海水の化学分析 (高橋正昭)
 - ・朝明川中流域と源流部の調査ほか

◇三重県立四郷高等学校

- ・7月31日、8月7・8日：2年生1名参加 {朝明川流域環境調査}
- ・衛星画像とGISによる朝明川および高松干潟の環境情報 (井岡幹博)
- ・高松干潟にてフィールド学習, 河川水と海水の化学分析 (高橋正昭)
- ・朝明川中流域と源流部の調査ほか

◇三重県立桑名北高等学校 (高校側：吉井佑太郎先生)

- ・10月28日 (金) 14時25分から15時15分：3年生全員の生徒160名
社会に出ていくにあたり知っておく事項：環境エコクイズと四日市地域の一斉大気汚染NO2観測について

今後の計画

平成24年度も積極的に高大連携活動を展開する予定です。

担当部門 : 四日市大学環境情報学部

連絡先 : 環境情報学部教授 武本行正 電話：059-340-1621 メール：takemoto@yokkaichi-u.ac.jp

2-3 北星高校との連携～総合政策学部1年生ゼミへの参加

活動の目的と経緯

四日市大学総合政策学部と北星高校との連携は、北星高校が四日市北高校であった時代から始まっています。北星高校は生徒の発達支援の観点から大学との連携授業に熱心に取り組んでおられ、当初は総合政策学部のゼミによる中心市街地の活性化活動への参加が中心でした。平成17年度からは、1年生の基礎ゼミに参加し、大学生と一緒に1年間学んで、高校の単位修得とする形式になりました。

北星高校では授業は生徒の選択制なので、毎年大学に来る生徒数は変化しますが、四日市大学から比較的近いこともあり、毎年数名の生徒さんが担当の先生と一緒に大学に通い、大学生と楽しく交流しながら成長しています。

活動内容と実績

総合政策学部の1年生のゼミは、前期はプレゼンテーションのトレーニングとレポート作成、後期はゼミ対抗ディベートを通じた総合的な学習を行います。総合政策学部では近年スポーツ推薦で入学した学生が増加していることもあって、学生のコミュニケーション力が向上しており、学生たちは高校生をゼミの一員として自然に受け入れています。特に後期のディベート大会では、高校生の活躍がめざましく、毎年重要な役割を果たしてくれています。

これまで高大連携によって総合政策部で学んだ高校生の中から、四日市大学に進学した学生もかなり出てきました。彼らの多くは、大学での授業に人一倍前向きに臨んでおり、入学後の成長が著しいという傾向がみられます。

今後の計画

今後も北星高校との連携は継続していきます。北星高校の学校評価委員長もこれまで総合政策学部教員が務めてきており、生徒の大学での授業参加に留まらず、多面的な高大連携が期待されます。



高校生が参加する総合政策学部1年生のゼミ対抗ディベート大会

担当部門 : 四日市大学総合政策学部

連絡先 : 総合政策学部教授 松井真理子 電話: 090-6411-0046 メール: mariko@yokkaichi-u.ac.jp

2-4 3 学部共同の高大連携授業

活動の目的と経緯

四日市大学では学部単独の高大連携授業に加えて、教学課の所管する3学部共同の高大連携授業も実施しています。対象高校は年度によって異なりますが、平成23年度は暁高校といなべ総合学園高校に対して実施しました。

活動内容と実績

◇暁高校

1年生対象（Ⅰ類）

日程	テーマ	担当者
10月17日（月）	スポーツ心理学	総合政策学部 若山裕晃准教授
10月18日（火）	四日市とんてきと地域おこし	総合政策学部 小林慶太郎准教授
10月20日（木）	なぜコンピュータは0と1で処理を行うのか	環境情報学部 城之内忠正教授
10月24日（月）	世界の中の日本	経済学部 牛島謙准教授
10月25日（火）	コンビニに入れば経営“学”がわかる	経済学部 東村篤教授
10月27日（木）	ソーシャル化する社会・経済	経済学部 岡 良浩准教授
10月31日（月）	四日市公害は終わったのか	環境情報学部 栗屋かよ子教授
11月1日（火）	デジタルとアナログ	環境情報学部 千葉賢教授
11月10日（木）	ユネスコ活動って何なの	総合政策学部 谷岡経津子教授

1年生対象（Ⅱ類）

日程	テーマ	担当者
10月27日（木）	ビックマックから経済を考えよう	経済学部 岩崎祐子教授
	人間の経済～経済生活のおおもとを探る	経済学部 李修二教授
11月10日（木）	社会と法	総合政策学部 中西紀夫教授
	昔の買物と今の買物	経済学部 杉谷克芳准教授

2年生対象 日時 平成24年2月7日（火）、14日（火）、21日（火）各3回授業

クラス	テーマ	担当者
A	比較心理学におけるニホンザルと人類の違い ～他者を参考にする学習に注目して～	環境情報学部 田中伊知郎准教授
B	子どもの言葉の発達	経済学部 谷崎智子准教授
C	メディアやコミュニケーションのツールに学ぶ経営 「学」	経済学部 東村篤教授
D	原子力発電をどう考えるか	環境情報学部 栗屋かよ子教授
E	メンタルトレーニング	総合政策学部 若山裕晃准教授

◇いなべ総合学園高校

3年生対象連続授業（全7回）

テーマ	担当者
異文化理解	環境情報学部 エリック・ブレイ教授

平成23年11月4日（金） 進学のための分野別模擬授業

分野	担当者
文系	デイビッド・ダイクス教授
理系	千葉賢教授

平成23年11月11日（金） 研究室訪問

学部	研究室
経済学部	杓掛和男教授、デイビッド・ダイクス教授、山川 学准教授、池田幹男准教授
環境情報学部	武本行正教授、田中伊知郎准教授、木村眞知子准教授
総合政策学部	吉村壽夫教授、中西紀夫教授、鬼頭浩文教授、若山 裕晃准教授

今後の計画

今後も高大連携授業は積極的に行って参ります。

担当部門 : 四日市大学教学課

連絡先 : 四日市大学教学課 電話 059-365-6716 メール : kyomu@yokkaichi-u.ac.jp

2-5 日本大震災救援活動と学校間連携

活動の目的と経緯

四日市東日本大震災支援の会(以下、支援の会)は、被災地の復興・復旧のために、四日市大学が中心となって設立されました。学生・教職員・一般市民とともに東北で災害ボランティア活動を行っています。目的は、被災地の復旧・復興と心のケアにあります。この活動には、三重県の若者にできるだけ多く参加してもらい、ともに被災者にいつまでも寄り添っていくことが重要だと考えています。被災地では「忘れられているんじゃないだろうか」とか「もう他人事になってきている」という声をよく聞きます。復興までは、まだ何年もかかると思います。現地では、学生の活動を本当に喜んでくれます。まるで孫になったようにお年寄りと絆を結び、お兄さんお姉さんのように被災した子供たちと遊びます。

また、予想される東南海地震において、東海地方において域内共助がスムーズに進むためには、多くの若者が被災地でボランティア活動をした経験が生きてきます。学校間で連携することも、災害に強いまちづくりにつながります。さらには、遠く被災地の学生たちと交流することも大切なことです。そこで支援の会では、三重県内の大学や高校に呼びかけを行い、現地での支援活動をしています。また、現地の大学・高校にも呼びかけを行い、防災・支援に関するワークショップを開催したり、一緒にボランティア活動を行います。

活動内容と実績

2011年の夏休みまでは、ガレキ撤去・ドロかきなどを中心に、延べ9日240名のボランティア派遣を行いました。2012年の3月には、三重県内から3つの高校、四日市大学を含む3つの大学が連携し、宮城県東松島市に出かけました。午前中は、三重県の6つの学校と、宮城県の2つの高校・2つの大学と支援のあり方について考えるワークショップを開催し、仮設住宅での交流についても協働で行いました。また、これらの活動を、地域のイベントや集会・講演会で市民に伝える活動もしています。

今後の計画

支援の会として、定期的に宮城県東松島市の仮設住宅での交流イベントを開催していきます。その際、三重県内の高校生・大学生にも参加を呼びかけ、学校間の連携を深めていきたいと考えています。交流イベントは、集会所で足浴や子供との遊び交流、お茶会などを行っていきます。



三重県：四日市大学・四日市看護医療大学・高田短期大学・暁中学高等学校・桑名北高等学校・四日市四郷高等学校
宮城県：東北学院大学・石巻専修大学・石巻北高等学校・石巻西高等学校・石巻高等学校

担当部門：四日市東日本大震災支援の会

連絡先：総合政策学部教授 鬼頭浩文 電話：059-340-1902 メール：kito@yokkaichi-u.ac.jp

3. 社会づくり・地域活性化活動

3-1 多文化共生社会の実現

活動の目的と経緯

わが国において、すでに多くの外国人と日本人が共に生活し、共に社会を構築している中で、「多文化共生」は重要な考え方だとされています。「多文化共生」とは、外国人を「お客様」として歓迎する考え方ではなく、外国人も住民であるとの視点に立ち、同じ地域の構成員として対等の関係を築くという考え方です。本学の外国人留学生も、この例に漏れません。

「多文化共生」の実現については、日本だけでなく世界の多くの国々が課題を抱え、理想的な状態には至っていないと言われます。しかしながら、本学における日本人学生・外国人留学生が多文化共生社会について深く考え、他者と意見交換する機会は限られていました。

このような事情を背景に、留学生支援センターでは、広く学内外に参加者を求め、日本や世界の多文化共生社会について議論及びプレゼンテーションの機会を提供する事業を行っています。活動内容は、日本の文化や自然に触れる親睦活動や本学教員による講演、参加者のグループディスカッション等であり、これらを通じて「多文化共生社会」に対する参加者の意識向上を目的としています。すでに現実のものである多文化共生について、自身の体験等を通して考えると共に、大学や地域における未来の国際交流活動のリーダーとしての力と意識とを持つことが期待されます。

活動内容と実績

本事業は年度単位で参加者を募り、一年間に4～5回の活動を行います。2010年度はEボート交流会、グループディスカッション、本学教員によるパネルディスカッション等を開催し、2011年1月8日に各チームの結果報告を行いました。ディスカッションのテーマはチームごとに異なります。文化、ことば、自然、社会ルール等、幅広い内容について様々な意見が得られました。

2011年度はデイキャンプ、グループディスカッション、本学教員による講演とパネルディスカッション等を実施し、12月10日に各グループの結果報告を行いました。結果報告には本学教職員や学生のほか地域の方もお招きし、120名程の皆様にお聞きいただきました。なお、グループディスカッションの1チームは、2012年3月24日開催の本学3学部フォーラムでも報告しています。

年度報告は、参加学生のプレゼンテーションのスキルを上げる良い機会ともなっています。

今後の計画

2012年度は、交流活動として四日市特産物である万古焼きの作成体験、3回のグループディスカッションと本学教員によるフォーラム等を実施し、2013年1月に報告を予定しています。



パネルディスカッション



Eボート交流会

担当部門：四日市大学留学生支援センター

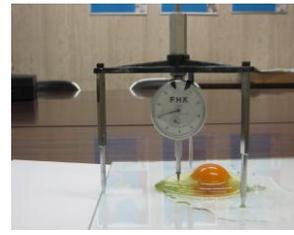
連絡先：留学生支援センター長 加納光 電話：059-365-6793 メール：issc@yokkaichi-u.ac.jp



養鶏の研究を担当する学生（田代君）



写真左が研究会の卵



ハウユニット値 最高 AA ランク



写真中央が研究会の肥料で出来た二十日大根



未来を担う子どもたちと実践的取組み



魚粉提供先 鳥羽の戸田家



→ 養鶏（卵生産）研究会



→ 洋菓子（タンブラン）

今後の計画

研究会は、今後もこれら養鶏実践研究で培ったノウハウを地域において事業化して、地球環境問題解決を図る持続可能な地域社会づくりとして浸透させようと研究を推し進めていく計画で、四日市市下野地域を最初のモデル地区にしようと挑戦しています。

具体的には、平成 24 年 2 月から事業展開を更に強固なものとするべく、下野地域の方々や大学内の教員の方々の積極的な参画を得て懇談会「地域ネット」を立ち上げ、各団体や教員の皆さまが得意とする取組みと知恵を結集し、NPO 法人下野生き域ネットが掲げている「下野☆キラ大作戦」を共同して展開しています。

地域ネットは、持続可能なまちづくりで「地域が変われば、未来が見えてくる」に挑戦していきます。詳しくは、<http://www.yokkaichi-ene.com/> 研究会ホームページをご覧ください。

担当部門 : 四日市大学エネルギー環境教育研究会

連絡先 : 研究会副会長兼事務局長 矢口芳枝 メール : yaguchi@cty-net.ne.jp

3-3 高校野球部メンタルサポート活動

活動の目的と経緯

野球は、国民から多くの支持を集める人気スポーツです。特に高校野球は、甲子園球場で行われる全国大会を全試合 NHK が中継することもあるため、より多くの関心を引き起こします。こうした背景により、ともすると過剰に勝利だけを目指した、勝利至上主義のクラブ活動が展開される高校は少なくありません。その結果、試合でのプレーにおいて選手に異常な精神的重圧がかかり、本来の実力が発揮できない、あるいは、大きなミスが一生涯にわたる心の傷となる、といったつらい経験をする高校球児が存在するのも事実です。

こうしたネガティブな出来事をできる限り回避するという点で、スポーツ心理学に関する理論を背景としたメンタルサポート活動は、健全な高校クラブ活動の一助となり得るのではないかと考えます。ある高校野球部員及び指導者を対象として、選手にはメンタルトレーニングの指導、指導者にはコーチングの理論やスキルについての意見交換等の活動を展開します。スポーツ本来の楽しさを体感し、マナーやスポーツマンシップを習得してもらうことがこの活動の主な目的となります。

活動内容と実績

平成 24 年 1 月からサポート活動を実施しています。指導者からすべてを指示される活動ではなく、練習メニューを選手たちが自発的に考えるような習慣が整ってきています。

今後の計画

今後も引き続きサポート活動を継続していくつもりです。「勝つこと、つまり、甲子園出場がすべてではない」という姿勢で自主性のある人材育成に少しでも貢献できればと考えています。

担当部門：総合政策学部

連絡先：総合政策学部准教授 若山裕晃 電話：059-340-1904 メール：young-mt@yokkaichi-u.ac.jp

3-4 四日市とんてき協会

活動の目的と経緯

四日市に来たことがない人たちにとっては、四日市と言うと、依然として公害の街という印象が強いようです。しかし、実際の四日市は、そのイメージに反して、とても暮らしやすい街です。

このギャップの解消、すなわち四日市に対するイメージの改善こそが、実は、四日市で地域おこしを進めていく上での、最大の課題なのではないでしょうか。いくら暮らしやすい魅力あふれる街であっても、それが知られていなければ、そこに引っ越して来る人も遊びに来る人もいないでしょうし、負のイメージでしか見てもらえないということが続けば、そこに住んでいる人たちまでもが、自らの街に対する愛着や自信・誇りを、失ってしまいかねません。

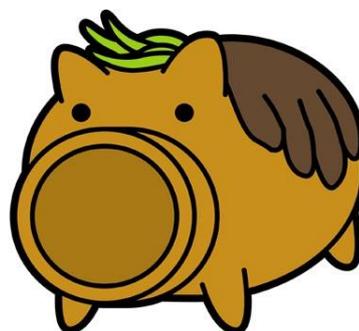
そこで辿り着いたツールが、ご当地グルメ「とんてき」です。昔から愛され食べ続けられてきた「とんてき」に四日市の地名を冠して押し出していくことで、四日市に対するイメージを改善し、四日市に暮らす人々の街への愛着や自信・誇りを取り戻していこう、「四日市とんてき」をツールとして活用することで地域おこしを進めていこうと考え、2008年に四日市とんてき協会を設立しました。

活動内容と実績

私たちの目標は、「とんてき」の販売促進ではありません。「四日市とんてき」というツールを使って、四日市という街の魅力を発信する活動を行っています。2008年春に試作版を出して以来、毎年「四日市とんてきマップ」を作成しているほか、公認ソースやコンビニ弁当など「四日市とんてき」を通じて四日市を売り込める様々な商品の開発を監修したり、食によるまちおこし団体の祭典「B - 1グランプリ」への出展（2010年度から）をはじめとした各地のイベントへの出展を通じて四日市のPRに努めたりしています。NHKで数十分も放映いただくなど、多くのメディアに取材いただいていることも、まちの魅力の発信につながっているのではないかと考えています。

今後の計画

2012年度以降も、引き続き「B - 1グランプリ」に出展するほか、他の団体との協働も進めながら、積極的に四日市のまちの魅力の発信に努めていきます。



四日市を代表するご当地グルメ「四日市とんてき」 四日市とんてき協会のキャラクター「テキブ〜」

担当部門 : 一般社団法人 四日市とんてき協会

連絡先 : 代表理事（総合政策学部准教授）小林慶太郎

電話 : 059-343-5405 メール : tonteki@tonteki.com（四日市とんてき協会事務局）

3-5 エフエムよっかいち(株)との関わり

活動の目的と経緯

地域に密着した情報提供を行うコミュニティFM局であるエフエムよっかいち(株)からの依頼を受けて、同じく地域に密着した大学として地域の要請に応えるという趣旨から、同局で3か月に1度放送されている討論番組「ラジオフォーラム」の進行役を、2004年夏より務めています。また、四日市大学の提供により同局で放送されてきた毎週金曜日の朝8時からの5分間番組「四日市大学発フラッシュナウ！」では、2週に1度、政治解説を担当してきました。さらに、2008年度からは、同局の番組審議委員会の委員長も務めています。

活動内容と実績

2012年3月の放送で34回目となった「ラジオフォーラム」では、選挙、水、農業、観光、子育て、健康、HIV…など、大きなテーマから細かいテーマまで、硬い内容から親しみやすい内容まで、その時々でテーマを変えながら、それぞれの話題にふさわしい多彩なゲストをこの地域の中からお招きして、放送してきました。2時間枠での生放送の座談会ということで緊張しがちなゲストの気持ちをうまくほぐして、できるだけ多くの内容を引き出して、分かりやすく整理しながらリスナー（聴取者）の皆さんにお届けすることを心掛けてきました。

「ラジオフォーラム」も「四日市大学発フラッシュナウ！」も、同局では数少ない硬派な番組ですが、いずれの番組に対しても、多くのリスナーから、eメールやFAXで感想が寄せられており、同局の地域に密着した情報提供の一翼を担うとともに、地域の皆様に様々な問題を考えていただく良い機会になっているのではないかと、自負しています。



「ラジオフォーラム」の様子が掲載されているエフエムよっかいち発行のフリーペーパー「POT」

今後の計画

「四日市大学発フラッシュナウ！」は残念ながら2012年6月で打ち切りとなってしまいましたが、「ラジオフォーラム」は、2012年度も引き続き放送を計画しています。

担当部門 : 総合政策学部

連絡先 : 総合政策学部准教授 小林慶太郎 電話 : 059-340-1923 メール : keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

3-6 四日市東日本大震災支援の会

活動の目的と経緯

東日本大震災の被災地の復興・復旧のために、四日市大学が中心となって、学生・教職員・一般市民とともに東北で災害ボランティア活動を行っています。また、東北だけでなく、継続的に災害発生した場合にはボランティアを派遣できるよう、体制を維持しています。

本会は、震災発生直後の2011年3月下旬に災害ボランティアを派遣するための体制づくりの検討に入り、4月1日に立ち上げました。そして、5月2日より宮城県社会福祉協議会を通じてボランティア・バスパックの制度を利用し、ボランティアが不足していた東松島市に学生を中心とする第1回派遣を行いました。その後、同様の制度を利用するなどし、継続的に東松島市の復旧・復興のための活動を行っています。

活動内容と実績

個人宅の片付け・ドロかき・清掃、生活道路の側溝のドロかきなどを中心に、7月までに合計5回、延べ9日240名のボランティア派遣を行いました。その後、9月からは、東紀州の水害についても、紀宝町へ2回延べ20名の災害ボランティアを派遣しました。2012年の2月からは、被災者の心の支援を中心に活動を再開し、仮設住宅の集会所などを利用した交流ボランティアを派遣しています。また、現地の高校生・大学生と支援のあり方について考えるワークショップを開催し、仮設住宅での交流についても協働で行うなど、現地の若者との連携も行っています。

今後の計画

宮城県東松島市の仮設住宅での交流イベント開催（2か月に1回のペースを計画しています）が活動の中心となる予定です。松島市は恒常的にボランティアが不足しており、宮城県社会福祉協議会が運営する災害ボランティアセンターから東松島市への派遣の要請を受けたのが、本会とこの地域との関わりのはじめです。その活動で関わった多くの被災者や社会福祉協議会などとの「絆」をベースに、今後は被災者の心のケアを中心に活動していく予定です。具体的には、集会所で足浴や子供との遊び交流、お茶会などを行っていきます。また、この交流会の告知を兼ねて午前中に仮設住宅をくまなく戸別訪問し、被災者の見守りと交流への参加を呼び掛けます。この活動によって、コミュニティ形成や孤立防止の効果が見込まれます。



担当部門 : 四日市東日本大震災支援の会

連絡先 : 総合政策学部教授 鬼頭浩文 電話 : 059-340-1902 メール : kito@yokkaichi-u.ac.jp

3-7 NPO法人市民社会研究所

活動の目的と経緯

NPO法人市民社会研究所は、2004年11月に設立されたNPOで、「市民及び市民活動団体の成長による、力強くあたたかい市民社会づくり」を目指しています。

設立以来一貫して四日市大学の9401室を大学から賃借しており、2010年から業務拡大に伴い、9402室、9403室も賃借しています。スタッフは全体で20名程度いますが、大学内で働いているのは5～8人程度です。四日市大学卒業生もこれまで4名雇用しており、そのうち1名は現在事務局次長として活躍しています。

活動内容と実績

市民社会研究所の仕事は大別すると次の4つです。四日市市、三重県内のNPOと幅広い連携活動を行っています。

① 市民教育

(人権のまちづくり、ディベート、外国人のための日本語講座、市民力養成講座など)

② 市民活動の支援

(地縁組織やNPOの連携、プロボノの組織化、市民活動センターの指定管理など)

*四日市NPOセクター会議(平成24年5月に「四日市NPO協会」と改称)、みえNPOネットワークセンターの事務局も務めています。

③ 働きにくい人のための仕事づくり

(北勢若者サポートステーション、ユニバーサル就労センター創設など)

④ ①～③に関する調査研究

今後の計画

市民活動をサポートするファンドをはじめ、さまざまな新しいしくみやネットワークを構築していきます。大学との繋がりを生かし、よりよい地域づくりを目指します。



四日市大学 9401 の事務所 (2011 年 6 月)



北勢若者サポートステーション (市役所近く)

担当部門 : 四日市大学総合政策学部

連絡先 : 総合政策学部教授 松井真理子 電話 : 090-6411-0046 メール : mariko@yokkaichi-u.ac.jp

3-8 四日市大学美術クラブ研究会

活動の目的と経緯

本研究会では、「四日市萬古焼」を中心としたクリエイティブ(創造)とコミュニケーション(対話)を体験できるイベントを開催しています。

最初に「萬古焼」の歴史に触れると、創始者は、桑名の豪商沼波弄山(1781~1840)です。現在の三重郡朝日町小向に窯を開きました。名前の由来は、自身の作品に「萬古」、「萬古不易」と印を押したところにあります。

「四日市萬古焼」は山中忠左衛門の尽力によって興り、末広や阿倉川に最初の窯が開かれました。そして地場産業として育ち発展しました。輸出の最盛期1980年には出荷額200億円を超えましたが、1998年頃には出荷額85億にまで落ち込み低迷しました。一方国内向けの出荷額はほぼ横ばいを続けましたが、IH時代に対応した新たな調理陶器の開発も進められています。

活動内容と実績

平成23年度の大学祭において四日市内の数名の陶芸作家を招いて、「四日市萬古焼」の電動ロクロひき体験と陶芸オブジェ制作を、ゼミ、美術クラブが中心となり企画運営し、開催しました。

この取り組みでは、大学のキャンパス内に市民、学生、教職員などによるクリエイティブ(創造)とコミュニケーション(対話)の空間が生まれ、萬古焼の伝統産業文化の理解と美の発見、そして創造の喜びが共有され、人と地域の歴史産業文化が融合した有意義な体験イベントになったと思います。

今後の計画

今年度24年の四日市大学祭に「萬古焼」実技体験コーナーを設け実施する予定です。また美術クラブ、卒業研究としても焼き物の歴史研究、制作研究に取り組む姿勢です。学外での「萬古焼」イベントにも積極的に参加する意向です。



平成23年度大学祭「萬古焼」実技体験風景

担当部門 : 四日市大学美術クラブ研究会

連絡先 : 総合政策学部教授 吉村壽夫 電話 : 059-340-1911 メール : yoshi@yokkaichi-u.ac.jp

4. 学生による地域活動

4-1 Aプロ（北勢線あるけオロジー）

活動の目的と経緯

Aプロは、2010年12月に経済学部教員と経済学部学生により、北勢線沿線の魅力を発見し、それを伝えること目的に結成されました。これまで、学生が自ら歩き、自ら見つけ、自ら伝えることを基本方針に、手作りを重視した活動をして参りました。そうしたなかで、「北勢線の魅力を探る会」、商工会議所などと協力し地域の活動に参画したり、本学主催の行事はもとより「美し国三重」関連の行事等で成果の一部を発表したりしております。

活動内容と実績

Aプロが本格始動したのは2011年1月であり、最初の調査として北勢線終点の阿下喜駅周辺を巡検し、それをきっかけに、阿下喜駅周辺の絵地図作りを最初の活動目標とすることにしました。3月には本学で、また、5月にはいなべ市民会館で予備調査の成果を発表し、その後、夏休みを挟んで、商店街を中心とした聞き取り調査、周辺地域を含めた踏査、八幡祭りの調査等を重ねました。10月の学園祭でこの間の成果をまとめ展示し、展示物の一部は2012年3月の「あげきのおひなさま」の際に貸出し、ウッド・ヘッド（商工会議所）で展示されました。

2012年に入り、調査地を北勢線始発駅の西桑名周辺に移し、年初めから巡検を開始しました。ここでは、地域の魅力を伝える歌留多を作成することとし、現在、そのための調査、試作を重ねております。

今後の計画

2012年は、西桑名の歌留多づくりを目標に、調査と試作を積み上げ、当面、10月の学園祭に完結した試作品の発表ができるよう準備を進めております。



調査地（阿下喜）にて

担当部門 : 四日市大学研究機構サステナビリティ研究所

連絡先 : 経済学部教授 富田与 電話 : 059-340-1427 メール : tomita@yokkaichi-u.ac.jp

4-2 MovieZoo

活動の目的と経緯

MovieZoo の活動は、主に経済学部教員と経済学部・環境情報学部の学生が中心となって行っています。その目的は、三重県北勢地域で活動する文化団体や企業などを学生目線で取材し、自分たちが体験した感動や課題などを動画で表現し、YouTube を通じて世界に発信することです。

本学には日本人学生のみならずアジアからの留学生も多く在籍しています。一人でも多くの学生達に、在学中にこの北勢地域の素晴らしさや問題点をしっかりと理解し、地域の発展的な将来像を描き、さらに、この活動によって得たものを卒業論文のテーマや自分の進路を決定する際のきっかけとして欲しいという思いから平成 22 年度よりこの活動を開始しました。

活動内容と実績

平成 22 年度には、3 つの「四日市市まちかど博物館」のを取材し、それぞれの館長さんの熱い想いを伝えました。

平成 23 年度には前年度より交流のあった「桑名の千羽鶴を広める会」とのコラボレーションで、桑名の千羽鶴の折り方を収めた DVD の「中国語」と「ミャンマー語」バージョンを作成しました。ミャンマーでは実際にその動画を使って 15 名くらいの現地の少年少女たちに千羽鶴を折ってもらいました。また、(株) 試作サポーター四日市出資企業<伊藤工機株式会社、小林機械製作所、森寺工機株式会社)取材し、この地域のものづくりの底力の強さを体験しました。

今後の計画

昨年度から引き続き千羽鶴の折り方 DVD の「ベトナム語」、「インドネシア語」バージョンを作成する予定です。また、今年度は四日市市が策定中の「四日市市中心市街地活性化基本計画」のワークショップ（名古屋大学大学院環境学研究科の大学院生との共同作業）に参加し、策定会議に学生による事業提案を行うとともに、それを記録映像として完成させる予定です。

なお、今年度より市民団体「メディアネット四日市」の方々による映像作成指導も受けています。



株式会社小林機械製作所の工場取材風景



鶴を折るミャンマーの子供達

担当部門 : 四日市大学研究機構サステナビリティ研究所

連絡先 : 四日市大学研究機構 電話 : 059-340-1927 メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

4-3 ETV よっかだい

活動の目的と経緯

大学自らの手による地域への情報発信は、これまで公開講座、パンフレット、新聞広告、ホームページ等に限られていました。情報技術の発展や社会への進展に従い、今後は映像番組等の動画発信が盛んになると考えられます。そのような中で、CTYが教養番組の放送を検討中との情報があり、本学とCTYとの協議が行われました。そして、まだ日本ではあまり例のない大学発の番組を制作・放映することが決定され、番組名は「世界を見つめ地域を考える・ETV よっかだい」と決まりました。そして、平成23年10月1日に最初の番組の放送が開始されました。

この番組は本学が取り組む教育研究や地域の出来事と課題などを取り上げて北勢地域の視聴者に提供するもので、社会連携活動の一環です。企画、撮影、編集などの番組作り全般を学生と教員が行います。初めて番組作りを行う者ばかりで最初は戸惑いもありましたが、CTYのご協力で順調に進めることができ、平成23年度中に7本の30分番組を制作し、放送することができました。

本番組は大学の社会連携活動を支える強力な道具であるばかりでなく、制作にあたる学生達にとっては、授業では学べない貴重な社会経験をできる場にもなっています。

活動内容と実績

平成23年度放送分の番組名と放送時期は次の通りです。

1. 10月「伊勢湾の環境と三重大勢水丸による伊勢湾海洋調査実習」
2. 11月上旬「生物多様性は本当に必要な概念か」
3. 11月下旬「地球環境問題が描く怖い将来はどこまで信じられるか」
4. 12月「四日市大学内における自然環境学習」
5. 平成24年1月「三重の現場・すごいやんかトーク」
6. 2月「多文化共生社会を考える」、7. 3月「魔方陣」

今後の計画

「ETV よっかだい」の活動は平成24年度も継続します。次のチャンネルと時間帯に放送予定です。

- ◎ CTYのコミュニティチャンネル（地上デジタル12ch）
- ◎ 月・水・金・日 22:30～23:00、火・木・土 16:00～16:30



番組「生物多様性を考える」の一場面



番組「もっとネット四日市」の一場面

担当部門 : 四日市大学研究機構（地域連携担当）

連絡先 : 環境情報学部教授 千葉賢 電話 : 059-340-1620 メール : chiba@yokkaichi-u.ac.jp

4-4 よっかだいエコ活動

活動の目的と経緯

本学はキャンパス内に広葉樹の森が広がり、鳥の声が一年中聞こえる、とても自然環境に恵まれた大学です。学生の力で、この自然を守り、より素晴らしい環境作りを進めるとともに、環境学習や学生の連携を深めることを目的として、平成 20 年 4 月に四日市大学環境活動会議（通称：よっかだいエコ活動）が発足しました。

その後、学生と教員は協力しながら、竹林の整備と竹を利用したイベントの企画、雨水調整池の整備、空地を利用した野菜づくり、学内および周辺のゴミ清掃などを行ってきました。学生メンバーによる地域活動への参加は新聞等のマスコミにも大きく取り上げられ、本学の社会連携の旗手として活躍しています。この学生メンバーは、学友会や大学祭実行委員などの学内学生活動でも中心的な役割を果たしており、学生の連携強化にも役立っています。また、手薄であった学内の環境整備に学生パワーが活かされ、キャンパスの竹林整備などが進みつつあります。

活動内容と実績

平成 23 年度の主な活動

4～7 月 フリーペーパー「エコ活集」制作、農業体験・野菜の苗うえ、Mie こどもエコフェアに参加

8～10 月 エコ活のホームページを制作、農業体験・夏野菜収穫、桑名西高校・竹の十三夜に参加

11 月 リーディング産業展みえに参加、十四川清掃活動に参加、秋の収穫祭

12 月 鈴木知事「すごいやんかトーク」に参加

1～2 月 四日市市環境シンポジウムに参加、竹茗舎と吉兆窯を見学

3 月 PPK 四日市と交流、フォーラム「持続可能な北勢地域の社会形成と大学の連携」に参加

3 月 大学キャンパスの竹間伐

今後の計画

今後も学生の主体性を大切にしながら、環境保全活動を進める計画です。



竹茗舎を訪問して竹の利用方法を学んだ



フォーラムで活動内容を発表した

担当部門 : 四日市大学環境協働活動会議（よっかだいエコ活動）

連絡先 : 環境情報学部教授 千葉賢 電話 : 059-340-1620 メール : chiba@yokkaichi-u.ac.jp

4-5 学生による地域連携活動を促進するプロジェクト

活動の目的と経緯

四日市大学の未来経営戦略推進特別助成金を活用し、平成 22 年度から「総合政策学部学生による四日市大学活性化企画の募集・実施事業」をスタートしました。これは、学生自らが大学の活性化に寄与する活動に参画することにより、四日市大学の魅力を対外的にアピールするとともに、学生の主体性や企画力の向上、社会参加の経験づくり等を図ることを目的とするものです。募集する事業は、主として①四日市大学を対外的にアピールする活動、②四日市大学の学生の実力を向上させる活動、③四日市大学と地域が連携する活動です。総合政策学部教員による審査会を行い、パスした企画には上限 5 万円の補助金があり、学生からの積極的な応募を促進するモチベーションとなっています。

活動内容と実績

この事業によって、学生は初めて地域に足を踏み出し、その後の継続的な活動につながっている企画もあるなど、顕著な成果がみられます。多くの企画はゼミを中心に提出されており、企画ごとに担当教員が付くことで、責任ある事業の遂行を担保しています。

平成 23 年度の企画一覧

企画提案内容	内 容
東日本大震災の被災者との交流事業	宮城県の被災者を四日市に招待し、交流会を行う。
東日本大震災の災害ボランティア派遣	現地でのボランティア活動に参加し、被災者との交流を深める。
地域パトロール	地域パトロールを継続し、防犯、ゴミ拾い等を行い、地域と交流する
全国ボランティアフェスティバル参加	東京で行われる全国ボランティアフェスティバルに参加する。
陶芸・陶彫実技体験入門	大学祭などで陶芸家を招いて陶芸・陶彫オブジェ実技体験を行う。
まごまごニーハオ	市内団地の高齢者の集いに参加し学生との交流を行う。
劇を通して英語を学ぼう	外国人の英語劇を視聴して聴解力や演劇の運営力を高める。
写真パネルの展示	三岐鉄道イベント列車写真コンテスト等の作品パネル展示
社会人学生OBによる四日市大学応援活動	障害者施設のパン販売・不用品バザーの売上寄付による留学生支援

今後の計画

成果があがっていることから、今後も継続していきます。平成 24 年度は総合政策学部全教員による審査会と、全企画の合同報告会を行う予定です。



教員による審査会で企画のプレゼンをする学生たち

担当部門 : 四日市大学総合政策学部

連絡先 : 総合政策学部教授 松井真理子 電話 : 090-6411-0046 メール : mariko@yokkaichi-u.ac.jp

4-6 四日市大学学生ボランティア部

活動の目的と経緯

平成 23 年 1 月、総合政策学部 1 年仁木舞衣子さんと三島彩さんが中心となり、ボランティア部が発足しました。四日市大学の学生によるボランティア部は、これまで存在したことがありましたが、中心となる学生の卒業と共に消滅していたので、再発足ということになります。今回の学生ボランティア部は総合政策学部の学生が中心となっており、自分たちの力を地域のために役立てたいと考える学生が集まって組織しています。

活動内容と実績

発足直後から、三重県主催の「子育て応援！わくわくフェスタ」(平成 23 年 3 月)の協力依頼があり、2 日間にわたって活動をしたことから、四日市大学にボランティア部ができたということが口コミで広がり、NPO や行政からの活動依頼が相次いでいます。

子どもの育ちを支援するNPOからのキャンプの手伝い、障害がある人を支援するNPOから畑の作業の手伝いとイベントの協力の依頼、四日市市民活動センターから市民との草刈り作業、社会貢献人材バンクから運営委員会への参画の依頼、四日市港管理組合から秋のみなと祭りの企画づくりへの参画、三重県からイベント時のゆるキャラの着ぐるみの協力などなどです。このことを聞きつけた新聞社からの取材もあり、活動の輪はますます広がっています。

外部からの依頼だけでなく、大学内での自主的なボランティア活動もやろうと、大学内にアンケート箱を置いて学生のニーズ調査を行いました。これまでクラブ部室の掃除手伝い、喫煙コーナーでの喫煙厳守のポスター作成など、地道な活動を行ってきています。

今後の計画

地域から多数寄せられる派遣要請に応じるには、学生数に限界があります。現在のボランティア部としての対応以外に、大学としてさらに組織的な取り組みが必要になっていると感じています。



水沢の農園でのイベント支援



中日新聞平成 23 年 6 月 23 日付

担当部門 : 四日市大学総合政策学部

連絡先 : 総合政策学部教授 松井真理子 電話 : 090-6411-0046 メール : mariko@yokkaichi-u.ac.jp

4-7 地パト（四日市大学地域パトロール）

活動の目的と経緯

各学部割り当てられている未来経営戦略推進経費を活用して、総合政策学部では、2010年度より、学生による大学活性化企画を公募し、審査の上でその企画の実施経費を補助するという仕組みを取り入れてきました。この初年度の企画として、学生から自発的に応募があったのが、四日市大学地域パトロール（通称：地パト）です。学部からの補助は、蛍光色のジャンパー（ユニフォーム）や、ごみ収集袋などの費用に充てられました。当初は、2名の学生だけでのスタートでしたが、防犯や清掃美化、そして地域住民との交流などを目的に活動し、現在では18名の学生が活動しています。

活動内容と実績

2週に一度（雨天の場合を除く）、大学の授業が終わった後に、四日市市あさけが丘の住宅地を、揃いの蛍光色のジャンパー（ユニフォーム）を着て、ゴミ拾いや地域の方への声掛けをしながら巡回しています。また、活動内容を地域の方々にお知らせするために、広報紙「地パトニュース」も発行し配布しています。

当初は、不審の目を向けてこられた地域の方々にも理解が広がり、2012年5月24日には、その活動の様子が、中日新聞にも取り上げられました。



揃いのユニフォームを着て、あさけが丘の住宅地で「地パト」の活動に励む学生たち

今後の計画

2012年度は、活動の範囲を朝日町白梅西にも広げて、さらに活動を拡充していく予定です。

担当部門 : 四日市大学総合政策学部

連絡先 : 総合政策学部准教授 小林慶太郎 電話 : 059-340-1923 メール : keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

4-8 四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」

活動の目的と経緯

選挙というと、毎回、若者の投票率が低いことが問題となります。こうした状況を打破しようと、四日市市選挙管理委員会や総合政策学部的小林慶太郎准教授からの働きかけを受けて、学生たちが自分たちの世代（若者世代）の投票率の向上を目指して始めた活動が「ツナガリ」です。2010年12月16日に、経済学部3名、環境情報学部1名、総合政策学部4名の計8名でスタートしました。グループ名の「ツナガリ」には、若者と選挙のツナガリ、選挙で選ばれる代表とのツナガリ、次の世代・未来へのツナガリなどの思いが込められています。

活動内容と実績

2011年4月の統一地方選挙（特に四日市市議会議員選挙）の際には、オリジナルの選挙啓発ポスターを作成し若者が集まりそうな飲食店約30店舗にポスターの掲示を依頼したり、駅前などで街頭啓発をしたりしました。また、大学祭ではアンケート調査や「ツナガリ」のPR活動のほか、四日市市明るい選挙推進協議会との協働での啓発活動も行いました。飲食店に着目した啓発は、20歳×選挙権と20歳×お酒に着目しての、学生ならではの発想で、こうした学生の活動は、財団法人明るい選挙推進協会や三重県選挙管理委員会などからも、注目・評価いただいているほか、新聞やミニコミ誌、FM局などのメディアでも紹介いただきました。



ツナガリが作成した選挙啓発ポスター

今後の計画

2012年度は、11月の四日市市長選挙に向けて、さらに活動を拡充していく予定です。

担当部門 : 四日市市選挙管理委員会

連絡先 : 四日市市選挙管理委員会 電話 : 059-354-8269 メール : senkan@city.yokkaichi.mie.jp

4-9 高齢者との交流グループ「おもてなしなんでもやります隊」

活動の目的と経緯

この取り組みは、平成 23 年度の総合政策学部 1 年生ゼミのレポート作成で、一人暮らし高齢者の孤独死の問題に取り組んだことがきっかけです。総合政策学部 1 年生の真弓秀子さんが、四日市市内でも一人暮らし高齢者のために地域で交流会が行われていることを新聞で読み、学生としてできることをやりたいと考えました。真弓さんの思いを聞いた留学生やボランティア部の学生たちが賛同し、一緒に取り組むことになりました。学生たちが地域に入っていくには、地域の自治会等の役員の皆さんと事前の打ち合わせを何度もするなど、時間をかけた準備が必要でした。突然学生から申し出を受けて最初は戸惑っていた地域の皆さんも、何度も足を運ぶ学生たちに次第に打ち解けていき、平成 23 年 12 月に、地域と大学との合同イベントを実施するに至ったのです。

活動内容と実績

留学生による中国語やミャンマー語によるあいさつ、学生がサンタクロースに扮してのゲームなど、10 名の学生の奮闘に、子どもにかえったような高齢者のみなさんの笑い声が集会所にあふれました。学生たちも「やってあげている」のではなく、自分たち自身が心から楽しむことができました。やってよかったという思いを胸いっぱいにして帰ってきましたが、一過性のものにしてはならないと、来年も訪問することや、今度は地域の方々を大学にお招きすることなど、次への取り組みに向けた検討が始まっています。このつながりを生かして、平成 24 年度の大学のパンフレットの写真も撮影させていただくことができました。

今後の計画

今後も地域との交流を続けていきます。こちらから伺うことはもちろんですが、大学にも来ていただいたり、大学での勉強につなげていければいいと考えています。



三重団地での交流風景



平成 24 年度大学パンフレットに掲載されました

担当部門 : 四日市大学総合政策学部

連絡先 : 総合政策学部教授 松井真理子 電話 : 090-6411-0046 メール : mariko@yokkaichi-u.ac.jp

5. 生涯学習・公開講座

5-1 四日市大学コミュニティカレッジ

活動の目的と経緯

コミュニティカレッジは、本学の地域貢献のひとつの取組みです。英会話・パソコンだけでなく、絵画・写真などの多様な講座を開催し、学外の皆様の要望に応えられるよう取り組んできました。設立して11年目を迎えますが、現在では多くの地域住民の方々の生涯教育の一端を担っています。

年間スケジュールとしては、各6週間で運営される4-5月・6-7月・9-10月・11-12月・2-3月講座と、受講生の要望により8月の夏期特別講座および1月の冬期特別講座を開講しています。特に平日夜間と土曜日の昼間には幅広い年齢層の受講生が来学し、交流も生まれ、コミュニティづくりに役立っています。

活動内容と実績

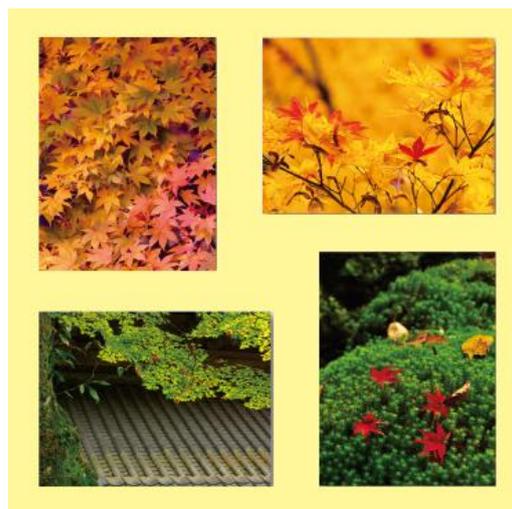
コミュニティカレッジでは、受講生や講師からの意見や要望に耳を傾け、講座運営にフィードバックしています。具体的には、受講生の多様な生活パターンを考慮した曜日や時間帯でのクラス編成を行い、また受講生の声をホームページに掲載しています。

今後の計画

講座の新しい企画を積極的に模索し、定番となった講座についてはマンネリ化を回避すべく講師と意見交換をしています。本学の持つ実学主義の特色を生かしたうえで、コミュニティカレッジとしても地域貢献のあり方を考えた講座を展開し、民間の専門学校等との差別化を図りたいと考えています。



2011年度 絵画講座 受講生作品



2011年度 写真講座 受講生作品

担当部門 : 四日市大学コミュニティカレッジ

連絡先 : 電話 : 059-365-6615 メール : caeb@yokkaichi-u.ac.jp

5-2 みえアカデミックセミナー2011

活動の目的と経緯

みえアカデミックセミナーは三重県生涯学習センターが主催する公開セミナーで、三重県内の大学、短大、高専が講師を派遣し、三重県文化会館にて実施されています。本学も毎年違った専門分野の教員を派遣しています。

活動内容と実績

2011年度は8月12日（金）13時30分より、本学経済学部准教授の永井博准教授が「敗戦日記を読む」をテーマに講座を開講しました。

100名余りの県民の皆様が講座に参加し、熱心に耳を傾け、講座終了後には多数の質問のために時間延長するほど盛会でした。

三重県は大学教員による講座が少ないようで、学習意欲があっても講座に参加できないことが多いと聞きます。そのためか、このアカデミックセミナーは大変人気があります。

今後の計画

2012年度の四日市大学教員によるアカデミックセミナーの公開講座は、環境情報学部教授 小川 東先生が講師を担当します。

テーマ「江戸時代の魔方陣」（注意：既に終了しました）

日 時 7月13日（金）13時30分より

場 所 三重県文化会館レセプションルーム

問い合わせ先：三重県津市一新田上津部田1 2 3 4

三重県生涯学習センター

Tel 059-233-1151 fax 059-233-1155

●.....●
担当部門 : 四日市大学庶務課
連絡先 : 電話 : 059-365-6688 メール : syomu@yokkaichi-u.ac.jp

5-3 四日市大学公開講座「東日本大震災から日本人が学んだこと」

活動の目的と経緯

2011年3月11日は、日本人にとって忘れることのできない悲惨な災害が発生した日です。巨大津波は多くの日本人の命を奪い、福島第一原子力発電所の事故は広大なエリアを住めないほど汚染しました。阪神淡路大震災やその後に起こった自然災害を通じて蓄積された防災や被災後の対応マニュアルは、まったく機能しませんでした。この災害から、われわれ日本人は何を学び、将来に向けてどのような社会を構築していくべきなのでしょう。

そこで、毎年開催している公開講座のテーマを、今年は東日本大震災とし、実際に現地で災害ボランティアを展開する四日市東日本大震災支援の会の取り組み、大震災を経験した日本の経済の行方、原発事故と放射能汚染の影響と、3つのテーマについて連続講演を行いました。

活動内容と実績

第1回は、災害ボランティアを通して見た東日本大震災と題し、実際に現地で数回にわたってボランティア活動を行った経験を踏まえ、地域の防災や行政の危機管理について考えました。第2回は、大震災を経験した日本の経済の行方と題し、震災を原因とする製品・部材等のサプライチェーンが途切れ、生産が停滞したことによる影響について分かりやすく説明しました。原発事故は深刻な電力不足を招き、あらゆる社会活動が制限される危機に立たされています。また、自粛ムードや風評被害の広がりによる消費への影響も無視できない状況にあります。ここでは、大震災から半年たち、電力不足の夏を過ぎた段階で、経済がどのような影響を受け、どのように復興に向かっているのか、考えました。第3回は、福島第一原発事故と放射能汚染の影響について考えました。東日本大震災では、原発事故により多くの市町村民が避難する事態になりました。農業や漁業も放射能汚染によって大きな影響を受けました。放射性物質が大気中や海水に放出され、土壌や海水が広く深刻に汚染されたことが原因です。ここでは、福島第一原子力発電所の事故の概要や背景を判りやすく説明し、放射能汚染の広がりによって、われわれの健康や生活がどのような影響を受けるのか、考えました。

今後の計画

この企画は、震災から半年の段階での講座でした。2012年度は、四日市市民大学の講座として、震災から1年半たった段階での現地の様子や、次に予想される東南海地震に対する備えについて考える講座を企画しています。



担当部門 : 四日市大学公開講座委員会

連絡先 : 総合政策学部教授 鬼頭浩文 電話 : 059-340-1902 メール : kito@yokkaichi-u.ac.jp

5-4 四日市市民大学「世界の民族楽器・伝統音楽に親しもう～文化・歴史を学び音楽を聴く～」

活動の目的と経緯

四日市市では、毎年市民向けに「四日市市民大学」という講座を開講しています。例年、5～8コース程度を企画していますが、その多くは市民企画であり、審査会を経て開講されています。市民大学は公募であるため、講座企画に偏りが生じると、四日市大学が穴埋めをします。2011年度は、文化的な講座がなかったため、スタジオを有する四日市大学として、音楽に関連する講座の企画をたのまれました。これを受け、響きの良いスタジオで市民に世界の民俗音楽を深く楽しんでもらう企画をつくりました。

活動内容と実績

第1回は、山岳国家ネパールの文化と音楽と題し、美しい風景から生まれた音楽について、本学で学ぶ留学生のラマ・カンチャを中心に数人のネパール人でユニットを編成して演奏活動を行っているグループに講義と演奏を依頼しました。第2回は、大型バス2台で岐阜サラムンカホールに出かけ、荘厳なパイプオルガンのコンサートを楽しみ、演奏終了後に特別にオルガンの仕組みや歴史についての講義を受けました。第3回は、ケルトの笛の世界を楽しんでもらいました。楽器は、アイリッシュ・フルート、バグパイプなど、多種類の楽器を3人で奏でてもらいました。また、ヨーロッパの美しい風景を写真で紹介いただき、歴史・風土についても学んでいただきました。第4回は、ハワイの文化と音楽と題し、ウクレレを中心とするハワイアンバンドの音楽にあわせ、フラダンスチームが華やかなダンスを披露してくれました。最後には、日本の伝統楽器である津軽三味線の演奏を聴いてもらいました。津軽の文化と伝統音楽は、われわれ日本人の心に響きました。

5回の講座は、申し込み時からたいへんな人気で、最終的には収容人数を大幅に上回ったため、抽選で受講者を決定するということになってしまいました。落選された方にはたいへんに申し訳なく、また次回開催ができればと考えています。

今後の計画

四日市市民大学は、今後も毎年開催されると考えられます。基本的に市民企画を中心に提供する仕組みになっていますので、このような音楽の講座の依頼があることは、十分に予想されます。今回の企画の中に講師の都合で盛り込むことができなかつたものがあります。民俗音楽は世界中に無数に存在します。四日市市では、あまり聴く機会のない民族楽器の講座を再度開催できればと考えています。



ケルトの笛の世界



実際にパイプオルガンで音を出す受講生

担当部門 : YUME

連絡先 : 総合政策学部教授 鬼頭浩文 電話 : 059-340-1902 メール : kito@yokkaichi-u.ac.jp

6. 調査研究

6-1 四日市大学研究機構 関孝和数学研究所

活動の目的と経緯

本研究所は数学およびその周辺に関する研究・調査を推進し、大学、社会の発展に寄与することを目的として、2009年に4月に発足しました。所長は上野健爾（京都大学名誉教授）、副所長は森本光生（上智大学名誉教授、元国際基督教大学学務副学長）、松本堯生（広島大学名誉教授）、小川東（本学環境情報学部）の3名です。研究員は所長、副所長を含んで15名が在籍し、うち9名は研究員、6名は客員研究員となっています。

活動内容と実績

各研究員の研究、啓蒙活動は多岐にわたるので、ここでは研究所主催の活動をまとめておきます。

(A) 関孝和数学研究所文化講演会（2011年11月20日、四日市大学）広く数学文化を紹介する目的で開催しました。今回は江戸時代の数学に焦点を当て、「松永良弼の手紙を読む」（小川東）、「関孝和の数学」（上野健爾）の2講演とパネルディスカッションを行ないました。

(B) 算数・数学教育フォーラム（2012年1月28日、四日市大学）小、中、高校の先生方と一緒に算数、数学教育を考えることを目的としてフォーラムを開催しました。「数学教育の未来」（上野健爾）、「数学教師35年を振り返って」（川越高校・稲垣勝義）、「暁高校の数学教育」（水谷直生）、「数学教育の研究について」（小川東）の4講演が行なわれました。

(C) 3.14 数学文化シンポジウム（2012年3月17日、四日市大学）このシンポジウムは専門的な内容を含みますが、そのような活動も広く一般に開放しています。今回は『大成算経』の世界」と題して、『大成算経』と珠算（小川東）、「建部賢弘と『大成算経』」（小林龍彦）、「霞洲写本群における『大成算経』」（佐藤賢一）、「関孝和と『大成算経』」（長田直樹）、「『大成算経』の数学」（お茶の水大学教授・真島秀行）の5講演がおこなわれました。



今後の計画

2012年度も2011年度と同様、研究所の主催事業としては文化講演会（10月8日、じばさん三重）、算数・数学教育フォーラム（12月1日）、3.14 数学文化シンポジウム（2013年3月16、17日）の開催を計画しています。また、研究員の社会連携企画への積極的な協力もします。なお、本年度は参加者の交通の便、昼食のことなどを考えて、なるべく四日市駅周辺での開催を計画しています。

担当部門 : 関孝和数学研究所

連絡先 : 四日市大学研究機構 電話 : 059-340-1927 メール : skim@yokkaichi-u.ac.jp

活動の目的と経緯

2000年の地方分権改革は、人口減少下での超高齢社会への対応は、もはやナショナル・レベルでの統一的施策では対処できず、地域の実情に応じた対応を自治体レベルでとることができるようにとされた改革でした。それだけに、その後の財政面での改革は遅々としたものと感ぜられますが、一括交付金化の動向を見れば、これまでの公=官ではなく、「公」の作り直しから取り組まなければならないことは明白となってきました。根底からの社会の作り直し、そのための意思形成、施策形成に至る道程は、限られた時間の中で遠く困難ですが、避けることのできない道程です。

2010年に公共政策研究所を設立した目的は、まさに全国の自治体の数だけ、あるいは、全国の地域の数だけ、多様な解決すべき課題が存するとの認識のもとに、自治体からの受託研究を受けて、学内の教員の専門知識を、地域課題解決に役立てたいとする意図によるものでした。

活動内容と実績

開設初年度の2010年度は、愛知県碧南市との委託契約に基づき、総合政策学部の松井真理子教授、小林慶太郎准教授、岩崎恭典教授の三人が、「へきなんの協働のあり方」に関する市民会議の運営支援業務を行い、業務遂行の過程では、学生にも市民参加の場を経験させることができました。

また、2010年度から11年度の2年間、岩崎教授の尾鷲市総合計画策定支援業務も受託しました。

過去の委託実績では、当研究所が契約主体ではないものの、四日市大学としての委託契約事業として、10年度以来、鬼頭浩文教授の企画となる四日市市市民大学講座・企画・運営事業、三重県内市町新規採用職員研修事業を実施しています。

こうした調査研究事業の実施を契機として、参加教員の自治体との共同研究の場は広がりつつあります。2011年度には、碧南市の一地区におけるモデル地域自治組織の形成支援事業に小林准教授が、また同年、愛知県津島市のコミュニティ基本方針策定作業に岩崎教授が、同市NPO支援方針の策定作業に松井教授が、同市公共施設のあり方検討委員会座長に小林准教授が、それぞれ参加するなどの実績を積み重ねてきました。

今後の計画

自治体の調査研究ニーズは高いものの、財政危機のために、その必要性は感じつつも、民間の調査研究機関に委託できない実情があります。公共政策研究所としては、限られた委託費のなかで、専門知識を活かした質の高い委託研究を実施できる体制を早期に整備したいと考えています。



担当部門 : 総合政策学部

連絡先 : 総合政策学部教授 岩崎恭典 電話 : 059-340-1903 メール : yasunori@yokkaichi-u.ac.jp

6-3 3 学部共同研究

活動の目的と経緯

四日市大学には地域づくりに必須な学問を扱う経済学部、環境情報学部、総合政策学部の3学部が存在しますが、これまで学部を超えた共同研究はあまり活発ではありませんでした。そこで3学部長が協議して、平成23年度より3学部共同研究の実施を目指すことになりました。平成23年度は学内で研究会を行い、各教員が研究内容を発表して相互理解を深めるとともに、年度末に市民向けのフォーラムを開催しました。

活動内容と実績

1. 学内研究会

第1回 9月8日(木)

①富田与教授(経済学部)「人類大移動時代の多文化共生」

内容: 人類の移動の原因分析、地域での多文化共生を考える上でのヒントを提示。

②播磨良紀教授(環境情報学部)「四日市の歴史的展開」

内容: 北勢地域の町村・集落の形成の特徴、人々の気質を議論。

③松井真理子教授(総合政策学部)「市民セクターの行方」

内容: 市民セクターとは何か。NPOの役割・財源・弱点・課題を提示。

第2回 9月15日(木)

④岡良浩准教授(経済学部)「ソーシャルビジネス・ソーシャルイノベーションの行方」

内容: 社会課題を解決するソーシャルビジネスの有効性、ご自身や学生グループの地域連携の取り組みを紹介。

⑤新田義孝教授(環境情報学部)「下野地区・伊勢竹鶏物語」

内容: 3Rプロジェクトとして実験に成功した伊勢竹鶏物語の経緯と下野地区での展開計画を紹介。

⑥岩崎恭典教授(総合政策学部)「特になし(ご自身の研究活動のまとめ)」

内容: 少子高齢化を伴う大きな社会変革の中での、地域行政の在り方、地域自治組織の望むべき姿を大羽根園などの例などにより紹介。

第3回目 9月22日(木)

⑦永井博准教授(経済学部)「宮澤賢治と公共性―「虔十公園林」再論」

内容: 「智恵・公益とは何か」を問う有名な童話に、時代を背景とした「公共性という口実に隠れた私有地の収奪への非難」が込められているという永井先生説の紹介。

⑧鬼頭浩文教授(総合政策学部)「天津市の環境保全シミュレーション」

内容: 天津市に関するSOXシミュレーション(健康被害抑制効果を含む)結果の報告。四日市公害への本学の研究が、継続発展していることを紹介。

第4回 10月27日(木)

⑨鶴田利恵准教授(経済学部)「MERCOSUR(南米南部共同市場)のグローバル化と地域主義」

内容: 貿易自由化に関する南米諸国の動きを解説。TPPの議論も行われた。

⑩小林慶太郎准教授(総合政策学部)「地域政策の研究と実践 ―なぜ四日市とんてきなのか?―」

内容：小林先生が進めてきたトンテキによる地域興しの紹介。

⑪高橋正昭教授（環境情報学部）「戦後 60 年間の環境変化と日本人」

内容：環境変化の歴史を振り返り、日本人の社会感、若者の考え方などの変遷を分析。

第 5 回 11 月 10 日（木）

⑫ダイクス教授（経済学部）「Functional analysis of advice in a text of tips for a better work-life balance」

内容：日常に使用している言語を分析し、その機能から良い人間関係を創るためのヒントを提示。

第 6 回 11 月 17 日（木）

⑬山本伸教授（環境情報学部）「なぜコメダ珈琲は流行るのか—拡張するコミュニケーションの行方と日本社会の可能性」

⑭若山准教授（総合政策学部）「日本人競技者のスポーツ達成志向性について」

2. フォーラム「持続可能な北勢地域の社会形成と大学の連携」

期日：平成 24 年 3 月 24 日

場所：四日市文化会館第 3 ホール

1. 『幸福実感日本一』の三重をめざして ～県民力による『協創』の三重づくり～

13:05～13:35 三重県知事 鈴木英敬 氏

2. 持続可能な北勢地域の社会形成と大学の連携

2-1 「学生制作映像による地域活性化」 13:40 ～ 14:00

経済学部 鶴田利恵+MovieZoo（学生団体）

2-2 「大学を拠点とした地域環境の保全」 14:00 ～ 14:20

環境情報学部 千葉賢+よっかだいエコ活動（教員と学生の協働活動）

2-3 「留学生と地域における多文化共生」（仮題） 14:20 ～ 14:40

留学生支援センター長 加納光+留学生グループ

2-4 「市民が支え合うやさしい地域」 14:40 ～ 15:00

総合政策学部長 松井真理子+ボランティア部

3. 会場との質疑応答 15:00 ～ 15:30

今後の計画

本格的な研究に入るにあたり、四日市市との協議の場を設け、3学部共同研究にふさわしい地域課題を抽出する予定です。選んだ地域課題について、学内での研究体制・研究計画等を作成し、四日市市、関係機関等と適宜協議しながら調査を進めます。年度末には成果を発表する場（フォーラム等）を設ける予定です。また、研究成果を報告書や論文にまとめます。

担当部門 : 四日市大学経済学部・環境情報学部・総合政策学部

連絡先 : 経済学部教授 富田与 電話 : 059-340-1427 メール : tomita@yokkaichi-u.ac.jp

6-4 四日市学研究会

活動の目的と経緯

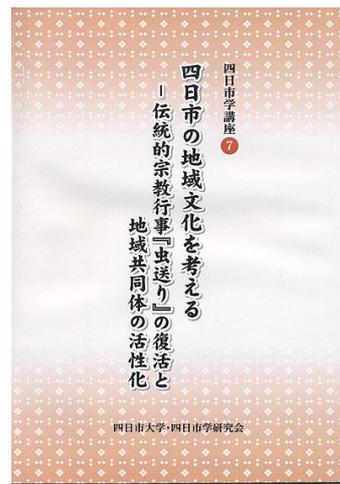
四日市学研究会は、平成 17 年（2005 年）3 月に四日市大学 3 学部の有志教員約 20 名が呼びかけ人になって設立された学内研究会の一つです。この研究会の目的は、広く、歴史的、自然的、文化的、社会的、経済的等々、さまざまな角度、視点から四日市地域に学び、四日市地域を研究し、その成果を地域の再生と発展のために役立てていくことです。

研究会は、発足当初から研究会活動に対する大学からの資金援助を受けてきました。そうした活動費を用いて、四日市地域の文化や歴史の特性、産業、中小企業、環境、都市計画等、さまざまな分野の現状を理解し、今後の地域の発展方向を考えていくために、講演会やシンポジウムを毎年、学内で実施してきました。そして、それら講演会やシンポジウムのなかで、とくに記録しておくべきものをブックレットにまとめ発刊してきました。

このブックレットは、平成 25 年度から四日市大学における正規カリキュラム内の地域学習分野講義科目「四日市学」の授業で、講義のテキストまたは副読本として用いられることが予定されています。それと同時に、ブックレットにまとめられた成果をできるだけ広く地域社会に公表していくため、四日市大学内、暁学園内はもちろん、学外関係団体や学生生徒保護者、さらには学外諸機関や一般市民の皆さんに対しても、ブックレットを希望者には現在までのところ無料で頒布しています。

活動内容と実績

平成 23 年度は、12 月 9 日に学内で、環境情報学部の北島義信特任教授を講師として、「四日市学講演会～四日市の地域文化を考える～」を開催し、学生、教員、それに一般市民の方々が合わせて 100 名近く参加しました。講演の演題は「伝統的宗教行事『虫送り』の復活と地域共同体の活性化—富田地区の事例を中心に—」であり、それは、四日市市富田地区にある正泉寺の前住職でもある講師らが現在実際に取り組んでおられる地域活動の内容についての講演でした。講演の後、参加者の間で質疑応答や意見交換が行われ、とくに一般市民の方々から活発な意見を受けることができました。この講演会の内容は、年度末までに冊子にまとめられ、『四日市学講座』第 7 号として発刊されました。



『四日市学講座』第 7 号（2012 年 3 月刊）

今後の計画

平成 24 年度も、研究会幹事会での検討を通じて適切なテーマを設定し、講演会またはシンポジウムを開催していく予定です。また、研究会によるブックレット発刊、頒布活動も引き続き継続していく方針です。

担当部門 : 四日市学研究会

連絡先 : 教学課（四日市学研究会事務局） 電話 : 059-365-6716 メール : oda@yokkaichi-u.ac.jp

6-5 大矢知・平津廃棄物不法投棄環境保全活動

活動の目的と経緯

大学周辺の富田、大矢知地区は四日市港や四日市コンビナートに近く、東名阪道や国道23号線がある交通の要所です。このため大矢知・平津地区において(有)川越建材興業による全国最大規模の産業廃棄物の不法投棄が発生し、周辺井戸水や河川への汚濁が懸念されています。地元では環境を守る会が結成され、長期にわたって保全活動が展開されてきましたが、膨大な産業廃棄物の撤去は非常に困難な状況にあり、対策が急がれています。

活動内容と実績

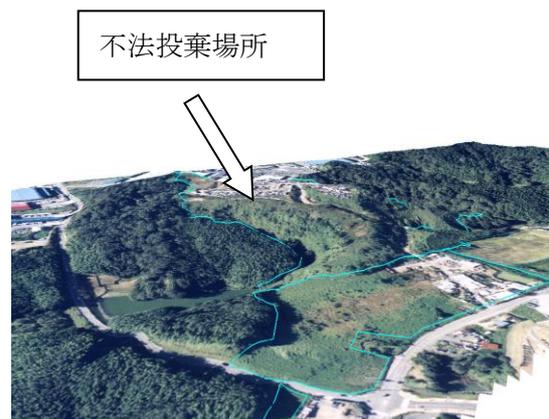
処分場周辺において広範囲の地下水汚染が恒常的に続いていることから、定期的に処分場周辺地域の湧水、井戸水の調査を行っています。地下水からは鉄、マンガン、ヒ素、1,4 ジオキサンなど各種汚染物質が見いだされています。これらの調査結果については学部の論集に掲載し、各種学会で発表するとともに、大矢知公民館で地区の自治会役員等を対象に説明を実施してきました。学生に対しても問題の啓発を行なうため、環境を守る会の伊藤会長を環境特殊講義の講師として招き講演をしているほか、投棄現地の見学会を行っています。

今後の計画

現在、三重県、四日市市、地元自治会、学識経験者からなる検討委員会によって廃棄物の飛散流出等防止策が協議され、対策が実施されようとしています。こうした対策の進行に合わせ、投棄場所周辺における有害物等のモニタリング、監視を進めていく予定です。



不法投棄場所の啓発活動



不法投棄場所

担当部門 : 四日市地域の廃棄物を考える会 (高橋正昭、栗屋かよ子、武本行正、カクホウ)

連絡先 : 環境情報学部教授 高橋正昭 電話 : 059-365-1639 メール : takahasi@yokkaichi-u.ac.jp

6-6 十四川環境保全活動

活動の目的と経緯

四日市の垂坂、大矢知地区を水源とし、富田地区を横断して伊勢湾に流れる十四川は桜の名勝地として市民に親しまれています。近年、東名阪道や北勢バイパスの建設が進行し、利便性から住宅団地がスプロール的に進められ、倉庫やトラックターミナルなどの商業施設も多数建設されています。そして、これらの都市化にともなう生活排水等の流出による水質汚濁が進行し、十四川への影響が懸念されています。このため、四日市市富田地区自治会が中心となって十四川を守る会が結成され、植樹、花見イベントの開催、浄化剤投入、河川清掃など様々な活動を展開されています。この十四川を守る会からの依頼を受けて、本学教員3名が加わって平成23年度から合同河川調査を開始しました。

活動内容と実績

平成23年度に水質調査を実施しました。その結果、十四川では極度の汚濁は認められないが、流量が少なく、生活排水の影響を受けやすいこと、水深が浅く、コンクリート3面張の構造であるため、水生生物が棲みにくいことなどが明らかにされました。また、河口部ではヘドロの堆積による悪臭の発生も認められました。この結果は地区自治会長らを対象にした説明会で発表し、周知に努めました。この他、昨年12月には河川清掃作業に学生約10名を参加させ、地元住民の方々との交流も図りました。

今後の計画

次年度以降も引き続き水質調査を行ない、環境改善を地元の人とともに協働していく予定です。



十四川の風景



河川清掃活動

●.....●
担当部門 : 十四川の環境保全活動を行う教員有志 (高橋正昭、粟屋かよ子、武本行正、カクホウ)

連絡先 : 環境情報学部教授 高橋正昭 電話 : 059-365-1639 メール : takahasi@yokkaichi-u.ac.jp

6-7 鈴鹿山脈ブナ林調査(四日市大学研究機構・サステナビリティ研究所)

活動の目的と経緯

四日市大学自然環境研究会による現地調査により、朝明川源流部に面積約 21.5ha、株数 3000 本以上の広大なブナ林が存在することが判明しました。ブナ林は豊かな生態系を育むため貴重であり、また水源としても重要です。この林床のスズタケ(ササ)が近年急速に枯死状態となってきましたが、ブナ林とササには共存関係があり、枯死がブナ林の成長に大きな影響を与える可能性があると考えられています。また地球温暖化は、寒冷地を好むブナの生息域を狭めてゆく可能性があります。

そこで、環境情報学部の教員有志が研究会と共同でブナ林保全の研究を開始することになりました。研究では、ブナ林の毎木調査等を実施し、GPS や GIS (地理情報システム) などの情報技術を活用してブナ林のデータベースを作成します。そのデータを活用して、ブナ林の現在の状況を把握し、温暖化の影響を含めた将来予測を行う予定となっています。また、スズタケの枯死原因を探るために、シカの採食調査等を実施する予定です。

活動内容と実績

平成 23 年度に 2 回調査を実施し、約 60 本のブナのデータを取得しました。

今後の計画

ブナは 3000 本近くあるため、学生調査員を募集して、調査を活発化させる予定です。



ブナ林の位置



Google Earth にプロットした調査地点



ブナ清水で休憩する研究会の皆さん



温度湿度計を設置している様子

担当部門 : 四日市大学研究機構

連絡先 : 環境情報学部教授 千葉賢 電話 : 059-340-1620 メール : chiba@yokkaichi-u.ac.jp

6-8 四日市辺二酸化窒素一斉調査

活動の目的と経緯

四日市では昭和中期の石油コンビナート建設により、工場群から多量の亜硫酸ガスが放出され、それによる大気汚染で多くの喘息患者を出しました。その後の対策で亜硫酸ガスは環境基準を下回るようになり、喘息患者数は激減し、四日市公害は収束しました。しかし、現在でも新たな喘息患者の発生はあり、その原因は不明とされています。新たな大気汚染の原因として浮上してきたのは自動車等の排気ガスに含まれる二酸化窒素（NO₂）です。三重県の自動車保有数は増加の傾向にあり、また高速道路等の道路建設が進み、大気中の二酸化窒素濃度の増加や、高濃度域の拡大が懸念されています。

平成 21 年には環境情報学部生と有志教員が中心となって、小学校や市民の協力を得て四日市周辺約 300 地点の二酸化窒素濃度を測定しました。この調査により、幹線道路付近や塩浜地区などに高濃度域があることが判明しました。この結果を受けて、環境情報学部は平成 22 年に大気汚染研究会を立ち上げ、継続的な調査を行うことを決定しました。この調査には、四日市商業高校、四日市中央工業高校、四日市農芸高校や市民団体が参加しています。また、「NPO環境市民大学よっかいち」から資金援助を受けています

活動内容と実績

第 1 回調査を平成 22 年 12 月 7 日に、第 2 回調査は平成 23 年 11 月 30 日に行いました。調査地点は四日市市周辺約 615 地点（平成 22 年）と 375 地点（平成 23 年）です。幹線道路沿いに高濃度域が存在する結果が得られました。

今後の計画

調査はカプセルを用いた簡易なもので、多くの学生や市民が参加しています。学術的な成果を論文発表していますが、環境啓発や環境教育の意図も含めて、今後も調査活動を進める計画です。



大学の実験室で NO₂ を測定する大学生と高校生



平成 22 年 11 月の NO₂ マップ（マーカー表示）

担当部門：四日市大学大気汚染研究会

連絡先：環境情報学部教授 武本行正 電話：059-340-1621 メール：takemoto@yokkaichi-u.ac.jp

7. 今後の展望

7-1 教員の社会連携ポテンシャルの活用方策

筆者は大学の社会連携のあり方について試行錯誤を繰り返してきましたが、その経験を通じて、社会連携活動は次の7タイプに分類できていると思っています。

- ① 談話会型：地域の方々が大学に定期的に集い、教員を交えてよもやま話をする。
- ② 法人組織型：地域で活動をする団体が、教員を担いで公的活動を行う。
- ③ 学生活躍型：教員が学生グループを組織し、地域の魅力を掘り起こして発信する。
- ④ イベント参加型：地域の祭りやイベントに学生が積極的に参加する。
- ⑤ 出前講義型：地域の集まりや高校などの要請に応じて講義に行く。
- ⑥ 啓蒙活動型：数学などを市民や子供たちに分かりやすく伝える。
- ⑦ 生涯学習型：コミュニティカレッジや社会人入学などで学ぶ。

具体例を挙げておきます。

- ① 懇談会型：「伊勢竹鶏物語」はここから誕生しました。
- ② 法人組織型：市民社会研究所、四日市大学エネルギー環境教育研究会などがその例です。
- ③ 学生活躍型：「MovieZoo」「ETV よっかだい」「ボランティア部」などがその例です。
- ④ イベント参加型：最近では伊勢の「高柳の夜店」に学生諸君が積極的に参加しました。
- ⑤ 出前講義：高校からのニーズに応じて積極的に教員を派遣しています。
- ⑥ 啓蒙活動型：関孝和数学研究所による子供たちや社会人向けの公開講座が良い例です。
- ⑦ 生涯学習型：コミカレや社会人入学制度がその例です。コミカレがさらに発展して、大学講義の中から市民に魅力がありそうなものを分かりやすく公開し、それが刺激となって社会人学生が増えるような形に発展すると、理想的なコミカレの姿になるだろうと思います。

これらの社会連携活動を見ると、社会的ニーズが原動力で生まれたものが大半で、教員の専門知識がそのまま活用されたものではありません。本学の教員ポテンシャルを活かすためには「社会ニーズに合わせて自分の専門知識をどう活かすか」と、教員側が発想を少し変えることが重要です。それとともに、地域の方々と本学教員が交流する機会を増やし、また教員の得意分野を知っていただくような取り組みを行うことで、教員ポテンシャルは最大限に活かされるようになります。

四日市大学は今後、このような方向に進んでゆくと考えます。地域の皆さんから「四日市大学さん、こんなことを私たちと一緒にやりませんか？」というご提案を是非お待ちしております。

本項担当：環境情報学部教授 新田義孝 電話：059-340-1631 メール：nitta@yokkaichi-u.ac.jp

7-2 四日市大学地域連携センター（仮称）への期待

地域の方々とお話ししていると、四日市大学には行ったことがないしどこにあるのかもよく知らない、四日市大学の先生もほとんど知らない、学生さんにいろいろお願いしたいけれどどこに頼んでいいかわからないというような声が多いのに驚かされます。大学には、研究者である教員や、20歳前後の若い学生が多数おり、地域にとっては他に例をみない多様な人的資源の宝庫なのですが、それがごく一部しか活用されていないのは誠にもったいないことです。

「世界を見つめ地域を考える」をスローガンに掲げる大学として、このような資源をどう生かすかを考えた時、高等教育機関として教育・研究や生涯学習等において地域のお役に立つことが考えられます。これに加えて、学生・教員によるボランティアセンターがあれば、地域の方々がもっと気軽に大学を「使う」ことができるのではないのでしょうか。学生であれば、まちづくり、環境、福祉、子ども、その他、若者らしい体力が必要なお手伝いも可能です。留学生も多いので、多文化共生に関わる活動のお手伝いもできるでしょう。教員の場合は、それぞれの専門知識に応じて、昨今注目されているプロボノ（専門知識を生かしたボランティア）が可能になります。

このようなボランティアセンターを立ち上げるため、まずは学生や教員にアンケート調査を行い、ボランティア登録する人材を確保した上で、システムティックに地域の要請に応じられるような体制づくりを行ってみたいと考えています。このようなボランティアセンターと、教育・研究や生涯学習などによる地域貢献活動と併せた「四日市大学地域貢献センター（仮称）」を設置できれば、地域と大学にWin-Winの関係を生み出す地域連携が飛躍的に進むのではないのでしょうか。

●.....●
本項担当：総合政策学部教授 松井真理子 電話：090-6411-0046 メール：mariko@yokkaichi-u.ac.jp

おわりに 社会連携の理想像とは

地域の方々に「四日市大学があつてよかった、四日市大学があるので自分の人生が楽しい、四日市大学が地元産業に貢献している」などと仰って頂ける大学とは、どんな大学なのでしょう。

大学ですから、入学した時に比べて三段階ぐらい成長した学生を輩出し、彼ら彼女らが地元企業に優先的に就職して、5年後10年後の各企業を発展させるのに貢献する、そういう教育機関でありたいと思います。その点、本学は入学時からきめ細かく一人一人に目配りをして指導していますので、他大学に比べて学生の伸び率は大分高いものと自負しています。各学部によって名前は異なりますが、初年次の少人数教育（入門セミナーなど）や専門教育のセミナーでは学生の個性に合わせた、学生に寄り添った熱心な教育が行われています。

厳しい社会経済環境の中で地元産業が発展し、また学生が就職難を突破してゆくことは社会の大きな課題です。これらは、地元企業経営者の方々と学生と教員が定期的に集い、お互い顔の見える関係を構築してゆくことで、解決の糸口が見つかる可能性があります。そのために大学が出来ることは、具体的な交流の場を作る作業をすぐにでも始めることです。

また、「7-1 教員の社会連携ポテンシャルの活用方策」で示した7タイプの社会連携活動に加えて、オープン部活動型（学生のブラスバンド部などに社会人が参加し、一緒に演奏会を行う）、災害貢献型（大学の地の利を生かして災害に備える）なども、具体的に実現が可能で、社会に大変有益な効果をもたらす活動になるのではないのでしょうか。

大学教職員と学生が地域からの要望に応える形で活躍する場を創造していくことが、社会連携の大事な部分です。地域の方々から、こうしてほしい、一緒にやりましょうというお声がかかり、そこから新しい価値が生まれていく事例を毎年少しずつ積み重ねてきました。その具体的内容を少しでも分かって頂けるようにしたのが、本冊子です。是非これを機会に大学への期待を具体的に声として、ご提案としてお寄せくださるようお願い致します。

研究機構担当・環境情報学部教授 新田義孝

資料編 学外委員会での活動（委員会名・役職名のリスト）

この資料は四日市大学に委嘱届の提出されたもののみを示します。この他に教員が個人的に学外組織の委員を務めている場合もあり、それらについては自己点検報告書をご覧ください。

氏名	派遣先	内容
宗村 南男	三重県私学協会	三重県私学協会評議員
	財)三重県私立学校教職員退職基金財団	三重県私立学校教職員退職基金財団理事長
	三重県私学総連合会	三重県私学総連合会理事
	三重県私立大学高専協会	三重県私立大学高専協会 理事・会長
	財)国際環境技術移転研究センター	国際環境技術移転研究センター理事
	三重県	美し国おこし・三重実行委員会委員
	三重県	みえメディカルバレー推進代表者会議委員
	四日市市	四日市・天津経済交流センター委員
	四日市北ロータリークラブ	名誉会員
永戸 正生	三重県立四日市商業高等学校	学校評議員
	財)三重県環境保全事業団 国際規格審査登録センター	品質マネジメントシステム判定委員会委員
	財)三銀ふるさと文化財団	評議員
池山 弘	愛知県	愛知県史編さん委員会近現代史政治行政部会調査執筆委員
	名古屋市	新修名古屋市史資料編纂専門委員
	岡崎市	新編岡崎市史額田資料編調査執筆委員
岡 良浩	三重県	三重県国土利用計画審議会委員
	三重県	三重県開発審査会委員
	三重県	三重県新エネルギービジョン策定懇話会委員
	三重県	みえメディカルバレー企画推進会議委員
	四日市商工会議所	選挙管理委員会委員
河崎 亜洲夫	財)三重県北勢地域地場産業振興センター	評議員
	三重県信用保証協会	三重県信用保証協会外部評価委員会委員
杉谷 克芳	独立行政法人雇用・能力開発機構 三重センター	三重県職業能力開発促進センターものづくり人材育成推進協議会委員
	独立行政法人雇用・能力開発機構 三重センター	三重県独立行政法人雇用・能力開発機構運営協議会委員
	鈴鹿市	鈴鹿市建築審査会委員
柴田 啓文	桑名市	桑名市差別撤廃審議会委員
鶴田 利恵	三重県	三重県都市計画審議会委員
	三重県	三重県環境審議会委員
	三重県	三重県住生活基本計画等策定懇話会委員
	四日市市	四日市市中心市街地活性化基本計画策定委員会委員
	桑名市	桑名市上水道事業計画等策定アドバイザー会議 アドバイザー
	愛知県	愛知県地価調査会議委員
	名古屋市	名古屋市上下水道事業経営調査会委員
	名古屋港管理組合	名古屋港審議会委員
	名古屋港管理組合	新舞子ポートパーク指定管理者選定委員会委員
岩崎 祐子	三重県	三重県職業能力開発審議会委員
	三重県	三重県教育改革推進会議委員
	四日市市	四日市市下水道事業運営委員会委員

	三重県信用保証協会	三重県信用保証協会情報公開審査会委員
	三重県立北星高等学校	外部評価員
沓掛 和男	三重県	三重県選挙管理委員会委員
	四日市市	四日市市固定資産評価審査委員会委員
播磨 良紀	四日市市立博物館	四日市市立博物館協議会委員
	四日市市立図書館	四日市市立図書館協議会委員
	四日市市	四日市市文化功労者選考委員会委員
	亀山市	亀山市史編纂各部会調査員
播磨 良紀	三重県	三重県史編さん専門委員
	古座町教育委員会	古座町史編纂委員会委員
	愛知県	愛知県史編纂委員会委員
	豊田市	新修豊田市史編さん古代・中世部会執筆委員
粟屋 かよ子	三重県	三重県環境審議会委員
	三重県	三重県公害事前審査会委員
高橋 正昭	松阪市	松阪市ごみ処理施設建設専門委員会委員
	三重県	四日市市大矢知・平津産業廃棄物不適正処理事案に係る地元住民とのリスクコミュニケーション等助言指導
	三重県	総合評価一般競争入札に係る落札者決定基準等の確認作業委員
	三重県下水道公社	評議員
	宮崎大学	農林水産政策実用技術開発事業推進会議外部委員
新田 義孝	石川県津幡町	津幡町科学のまち推進委員会委員
	石川県津幡町	津幡町政策アドバイザー
武本 行正	財)三重県工業技術振興機構	みえ新産業創造・交流会(環境分野・情報分野)部会員
	三重県	伊勢湾学セミナー設置運営懇談会委員
	三重県	三重県環境影響評価委員会委員
	三重県	三重県公害事前審査会委員
	三重県	三重県自動車排出窒素酸化物等総量削減計画策定協議会委員
	四日市市	四日市市環境保全審議会委員
	いなべ市	いなべ市水道水源保護審議会委員
	いなべ市	いなべ市環境審議会委員
	日本雨水資源化システム学会	日本雨水資源化システム学会評議員
千葉 賢	三重大学	大学院生物資源学研究所附属練習船教育関係共同利用運営協議会委員
田中 正明	三重県	三重県生活環境の保全に関する条例第95条に規定する専門委員
	三重県	三重県産業廃棄物の適正な処理の推進に関する条例並びに廃棄物の処理及び清掃に関する法律に規定する専門委員
	三重県	三重県環境影響評価委員会委員
	三重県	三重県環境審議会専門委員
	四日市市	四日市市ごみ減量等推進審議会委員
	財)三重県環境保全事業団	廃棄物処理センター事業安全管理委員会委員
	国土交通省中部地方整備局	設楽ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会委員
	財)ダム水源環境整備センター	ダム環境放流研究会委員
	財)ダム水源環境整備センター	ダム発電検討委員会委員
日本珪藻学会	運営委員、編集委員	
城之内 忠正	三重県立朝明高等学校	学校評議員
山形 多聞	四日市市	四日市市文化振興基金活用事業審査会委員長
	四日市市	四日市市文化振興事業審査・協議会委員
前川 督雄	科学技術政策研究所	科学技術動向研究センター専門調査員
本部 賢一	四日市市	四日市市開発審査会委員
	三重県	三重県国土利用計画審議会委員

	中部地方整備局	総合評価委員会三重県地域部会委員
田中 伊知郎	独) 日本学術振興会	特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査委員
牧田 直子	三重県	三重県環境審議会委員
	四日市市	第3期四日市市環境計画策定委員
	四日市市環境フォーラム	四日市市環境フォーラム委員
岩崎 恭典	四日市市	四日市市教育施策評価委員会委員
	桑名市	桑名市就学前施設再編検討委員会委員長
	伊勢市	伊勢地域公共交通会議副委員長
	伊勢市	伊勢市駅前再生検討委員会委員長
	伊勢市	伊勢市まちづくり市民会議アドバイザー
岩崎 恭典	伊勢市	伊勢市都市再生整備計画事業評価委員会委員
	亀山市	亀山市まちづくりの基本条例推進委員会委員
	伊賀市	伊賀市地域活動支援事業審査会委員長
	伊賀市	伊賀市自治基本条例推進研究会アドバイザー
	伊賀市	伊賀市まちづくり委員会委員
	松阪市	松阪競輪あり方検討委員会委員
	尾鷲市	尾鷲市情報公開審査会委員
	尾鷲市	尾鷲市個人情報保護審査会会長
	尾鷲市	尾鷲市総合計画策定審議会会長
	東員町	東員町行財政検討委員会委員長
	東員町	東員町総合計画策定審議会座長
	三重県教育委員会	三重県教育委員会委員
	三重県	ごみゼロプラン推進委員会委員
	三重県	三重県新しい公共支援事業運営委員会委員
	三重県	三重県特別職報酬等審議会委員
	三重県	NPO 活動基盤強化事業運営委員
	三重県	地域思いビジネス発表会発表者選考審査委員
	三重県	みんなで創ろう「みえの舞台」会議助言者
	北名古屋市	北名古屋市行政改革委員会委員
	津島市	津島市総合計画審議会委員長
	岩倉市	第4次岩倉市総合計画策定に係るアドバイザー会議委員
	三好市	三好市まちづくり条例策定審議会委員
	神戸市	神戸市施策外部評価委員会委員
	東近江市	東近江市行政改革推進委員会委員
	米原市	米原市行財政改革市民会議委員長
	大阪市	大阪府市政改革専門委員(市政改革アドバイザー)
	大阪市	大阪府市政改革会議委員
	大阪市	行政区調査研究会委員
	川西市	川西市参画と協働のまちづくり推進会議委員
豊中市	豊中市地域自治システム調査検討委員会委員長	
谷岡 経津子	三重テレビ放送(株)	三重テレビ放送番組審議会委員
	四日市港管理組合	四日市港港湾審議会委員
	社) 日本港湾協会	四日市港長期構想検討委員会委員 みなと環境部会長
	財) 三重県環境保全事業団	情報公開審査会委員長
	三重県ユネスコ連絡協議会	三重県ユネスコ連絡協議会理事長
	社) 日本ユネスコ協会連盟	社) 日本ユネスコ協会連盟評議委員
	三重県立美術館	三重県美術館協力会評議員
	四日市市	四日市市環境保全審議会委員

	亀山市教育委員会	亀山市学校問題調査検討委員
	三重県	三重県港湾審議会委員
	三重県	三重県環境影響評価委員会委員
	三重県	三重県放課後子どもプラン支援会議委員
	三重県	三重県景観審議会委員
	財)三重県救急医療情報センター	理事
	NPO 俳句みえ	俳句と彩り展審査委員
吉村 壽夫	三重県	三重県環境影響評価委員会委員
	三重県文化振興事業団	第63回みえ県展運営委員
	桑名市	桑名市都市計画審議会会長
	桑名市	桑名市水道水源保護審議会委員
	桑名市	桑名市地域政策審議会会長
吉村 壽夫	桑名市	桑名市火葬場建設検討委員会委員
	桑名市	桑名市斎場管理運營業務委託事業者選定委員会委員
	桑名市	桑名市環境審議会委員
	津市	第5回津市美術展覧会審査会(彫刻部門)審査員
松井 真理子	四日市市	四日市市入札監視委員会委員
	四日市市	四日市市男女共同参画審議会委員長
	四日市市	四日市市人権施策推進懇話会副委員長
	四日市港管理組合	四日市港長期構想検討委員会委員及び物流・まちづくり部会委員
	三重県	三重県収用委員会委員
	三重県	三重県防災事業推進懇話会委員
	三重県	三重県男女共同参画センター運営協議会委員
	三重県	定時制通信制高等学校北部地域連絡会議委員
	三重県	三重県人権施策審議会委員
	愛知県	委託団体選定員会委員
	愛知県	新しい公共支援事業運営委員会委員
	全国市町村国際文化研修所	教科問題懇談会委員
	財)三重県文化振興事業団	三重県文化振興事業団評議委員
	中部地方環境事務所	中部環境パートナーシップオフィス運営会議委員
	CTY	番組審議委員会委員
鬼頭 浩文	㈱日経リサーチ	日中環境問題及び中国の長期的経済発展に関する研究 委員
	四日市市	公害に関する資料館あり方検討会委員
	四日市市	四日市市民大学企画運営団体審査会審査委員
小林 慶太郎	三重県	三重県公共工事総合評価審査委員会委員
	三重県	三重県版事業仕分け仕分け人
	三重県	森林づくりに関する税検討委員会委員
	四日市市	四日市市総合評価方式事後評価委員会委員
	四日市市	四日市地域審議会委員
	四日市市	新しい図書館のあり方検討会委員
	鈴鹿市	鈴鹿市公の施設の指定管理者選定委員会会長
	桑名市	桑名市上水道事業計画等策定アドバイザー会議 アドバイザー
	朝日町	第5次朝日町総合計画審議会委員
	日進市	日進市市民参加・活動条例検討委員会アドバイザー
	津島市	津島市公の施設等のあり方検討会委員
	財)三重北勢地域地場産業振興センター	評議員選定委員会委員
	四日市とんてき協会	代表
	エフエムよっかいち(株)	番組審議委員会委員

平成 24 年度後半の四日市大学地域連携行事予定

【各種公開講座、オープンキャンパスなど】

四日市大学で行われる各種の公開講座やオープンキャンパスの予定です。この他に定期的実施されている公開授業などもあります。また今後、新たに計画される行事については大学ニュース（ホームページ）等でお知らせします。

2012/07/25 現在のデータ

月	日	曜日	内 容
9 月	15 日	土	オープンキャンパス
	26 日	水	経営学特殊講義（日本総合研究所調査部・主席研究員・藻谷浩介氏）
	29 日	土	公開講座
10 月	10 日	水	経営学特殊講義（株式会社くじラボ・代表取締役・市川さつき氏）
	13 日	土	公開講座
	24 日	水	経営学特殊講義（平松産業株式会社・代表取締役・平松俊範氏）
	27 日	土	大学祭・オープンキャンパス・公開講座
	28 日	日	大学祭
11 月	7 日	水	経営学特殊講義（ローム顧問（元村田製作所広報部長）・大島幸男氏）
	14 日	水	経営学特殊講義 （株式会社小林機械製作所・代表取締役社長・森十九男氏）
	28 日	水	経営学特殊講義（株式会社東海テクノ・代表取締役社長・市田淳一氏）
12 月	1 日	土	関孝和数学研究所数学文化講演会
	12 日	水	経営学特殊講義 （IMS アセットマネジメント・代表取締役・清水秀和氏）
3 月	16 日	土	関孝和数学研究所数学文化講演会
	17 日	日	関孝和数学研究所数学文化講演会
	30 日	土	オープンキャンパス

※公開講座のテーマは未定

【コミュニティカレッジ】

現在開講している講座内容は、写真講座・絵画・三味線・社交ダンス・話し方・デジカメ・パソコン・英会話・中国語広東語・韓国語・ドイツ語・スペイン語・フランス語です。詳細は、コミュニティカレッジ HP もしくは事務局までお問い合わせください。

開講月	申込期間	開講期間
2012 年 9-10 月講座	8 月 1 日～8 月 21 日	9 月 1 日～10 月 13 日
2012 年 11-12 月講座	10 月 10 日～10 月 23 日	11 月 2 日～12 月 15 日
2013 年 2-3 月講座	12 月 26 日～1 月 15 日	1 月 29 日～3 月 9 日（予定）

四日市大学社会連携報告書 平成 23 年度版

編集者

地域連携担当 千葉 賢

四日市大学研究機構担当 新田義孝

四日市大学研究機構事務 林 芳